

平成30年度 全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

吹田市教育委員会

はじめに	P	1
1. 調査の概要	P	1
2. 学力・学習状況の概要		
1 教科に関する調査結果		
(1) 全体の概要	P	2
(2) 各教科の概要	P	3
(3) 各教科問題別分析	P	13
2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果		
(1) 自分自身のことについて	P	47
(2) 家庭生活・地域社会について	P	50
(3) 学校生活・学習について	P	58
おわりに	P	62

はじめに

本市では、教育施策や学校における指導方法の工夫改善につなげるため、児童・生徒の学力・学習状況を把握し、課題について検証してまいりました。今年度も、全小・中学校において、文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査に参加し、これまでと同様に、教科の概要とともに、児童・生徒の意識調査から学習意欲や学習方法等に見られる課題について分析を行いました。

また、平成23年度に開校した千里みらい夢学園の開校前の調査(平成21年度)と比較することにより、小中一貫教育を進めてきた成果を客観的に測ろうとしております。

本市の教育がめざすところは、小中一貫教育を基盤とし、次世代を担う子供たちに、困難に打ち克ってくじけない、「知」「徳」「体」の調和がとれた「総合的人間力」を育成することです。

次期学習指導要領では、「何のために学ぶのか」という学習意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出せるように、すべての教科を、「知識・技能(何を理解しているか、何ができるか)」、「思考力・判断力・表現力等(理解していること・できることをどう使うか)」、「学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか)」という三つの柱で整理されました。そして、その力をつけるためには、「主体的・対話的で深い学び」の充実も求められています。

各校において、授業づくり等、より具体的な指導方法の工夫改善を図るとともに、教育委員会としても、調査結果の分析を、各校の授業研究を支援する体制づくり等、教育施策に反映させ、確かな学力を育む取組を積極的に進めてまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 平成30年4月17日(火)

(3) 調査対象 小学校6年生・中学校3年生の児童・生徒

(4) 本市受験者数 小学校 36校 (3226名)

中学校 18校 (2890名)

(5) 調査内容

ア. 学力に関する調査 : 小学校 (国語A・国語B、算数A・算数B、理科)

中学校 (国語A・国語B、数学A・数学B、理科)

◇主として「知識」に関する内容…A問題

◇主として「活用」に関する内容…B問題

イ. 学習状況に関する調査

児童・生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査

ウ. 学校の取組に関する調査

学校を対象に学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査

(6) 調査経緯

全国学力・学習状況調査は平成19年度～平成21年度に全員調査を行い、平成22年度・平成24年度・平成25年度は3割の抽出校及び希望校による調査でした。平成23年度は東日本大震災のため、中止となりました。平成26年度以降は再び全員調査となっています。平成30年度は、平成24年・平成27年に続き、3年ぶりに理科が実施されました。

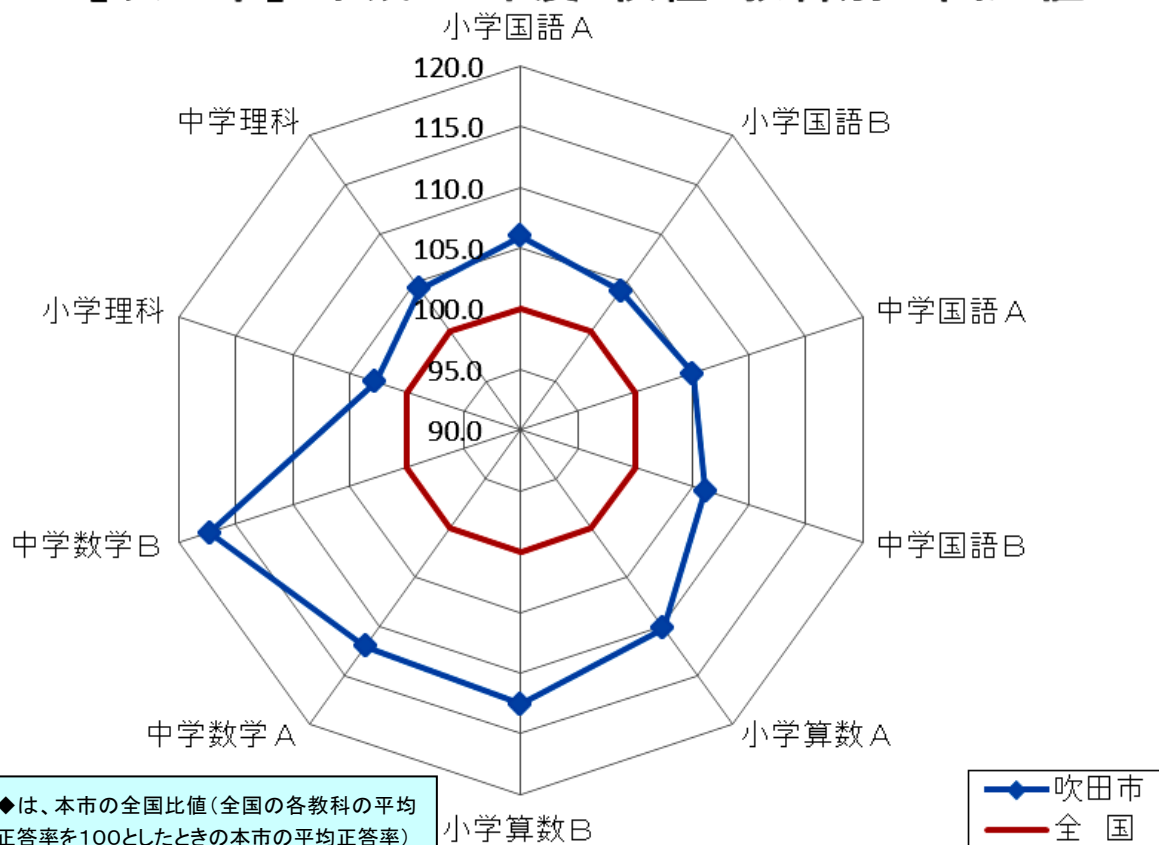
2. 学力・学習状況の概要

1 教科に関する調査結果

(1) 全体の概要

- 国語については、小学校・中学校とも全国値を上回っており、中学校はA（知識）問題よりもB（活用）問題の方が全国比值は高い。
- 算数・数学については、小学校・中学校とも全国値を大きく上回っている。また、小学校・中学校ともA問題よりもB問題の方が全国比值は高く、中学校のB問題の全国比值は、特に高い。
- 理科については、小学校・中学校とも全国値を上回っている。
- 前回調査（平成29年度）と比較すると、小学校国語A問題及び算数A問題、中学校数学B問題については、前回調査の正答率の全国比值を大きく上回っている。
- 無解答率は、小学校・中学校とも全体的に全国値よりも下回っているが、小学校国語A問題及び小学校理科問題の一部の領域で、無解答率の高さに課題が見られた。
- 小中一貫教育校千里みらい夢学園開校前（平成21年度）の結果と比較すると、小学校国語B問題以外はすべて全国比值を上回っており、小中一貫教育による確かな学力の育成に一定の成果が見られる。

【吹田市】平成30年度 校種・教科別全国比值



【吹田市・全 国】校種・教科別正答率の全国比值（全国の平均正答率を100としたときの吹田市の平均正答率）

	小学国語A	小学国語B	小学算数A	小学算数B	小学理科	中学国語A	中学国語B	中学数学A	中学数学B	中学理科
H30吹田	106.0	104.2	110.2	112.6	102.8	105.1	106.2	112.0	117.3	104.4
H29比	3.1	▼1.9	4.6	▼0.7	▼2.5	0.4	▼0.4	▼1.0	5.0	▼1.4
H21比	0.4	▼5.7	5.5	2.2	-	6.0	7.7	5.0	13.6	-
H29吹田	102.9	106.1	105.6	113.3	105.3	104.7	106.6	113.0	112.3	105.8
H21吹田	105.3	109.9	104.7	110.4	-	99.1	98.5	107.0	103.7	-

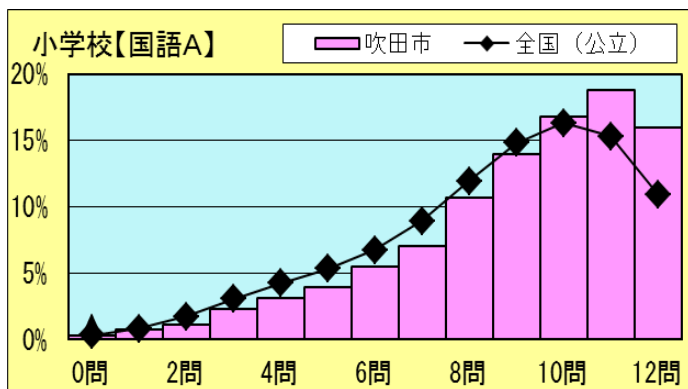
※1 H29の数値は小学理科・中学理科についてはH27の数値

※2 ▼はマイナスを表す

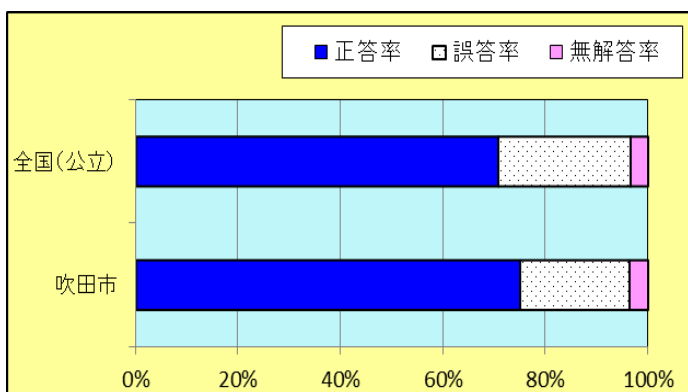
(2) 各教科の概要

【小学校 国語A】

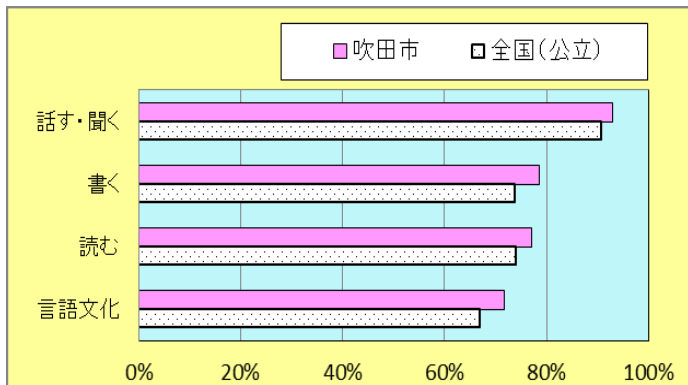
① 正答数分布グラフ



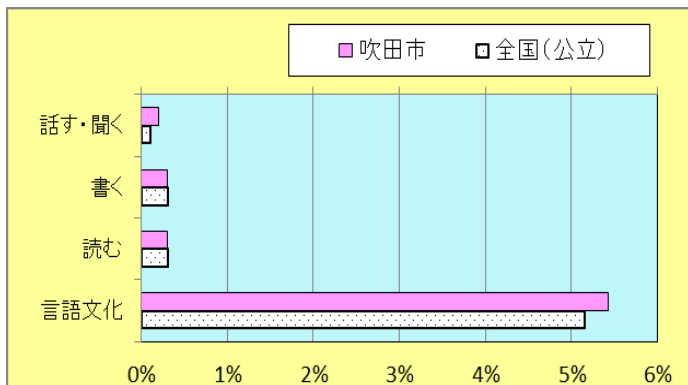
② 正答率・無解答率



③ 領域別正答率



④ 領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、11問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「話す・聞く」「言語文化」の領域において、本市の無解答率は全国をやや上回っており、課題である。

○「話すこと・聞くこと」の領域において、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題はできている。

○「書くこと」の領域において、自分の想像したことを物語で表現するために、文章全体の構成を考える問題の正答率は全国値を上回っている。

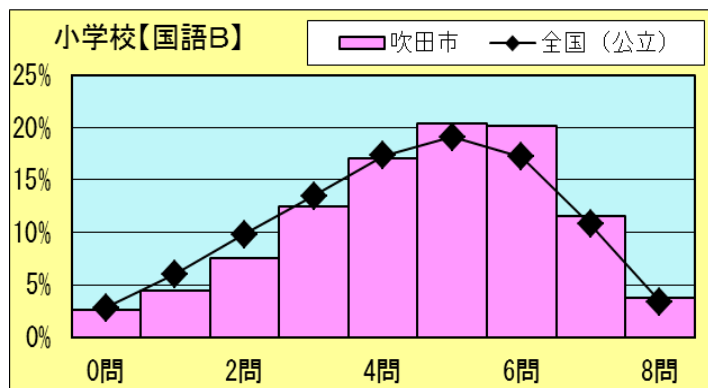
○「読むこと」の領域において、目的に応じて必要な情報を捉える問題、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題はともに理解できている。

○「言語事項」の領域においては、8問すべてで全国値を上回っているが、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題では、正答率は低くなっている。

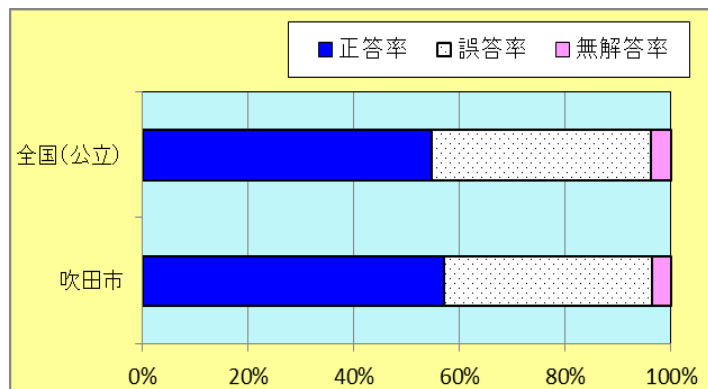
○12問中9問で、全国値よりも無解答率が高く、選択式問題においては、全問において全国値と同じか上回っている。あきらめず、粘り強く取り組む力を育てる必要がある。

【小学校 国語B】

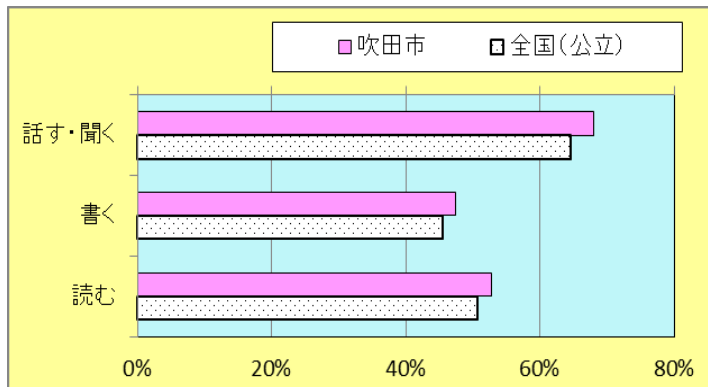
①正答数分布グラフ



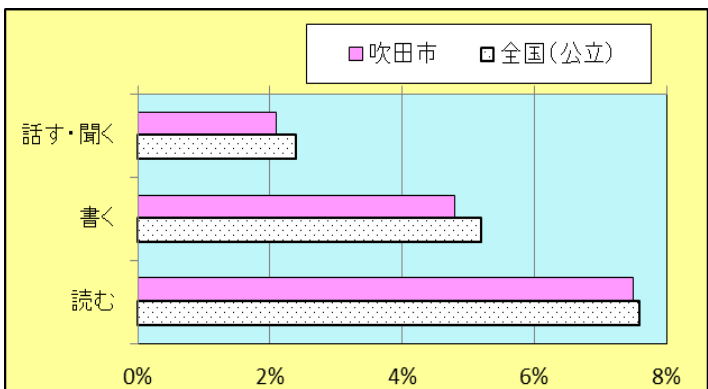
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、5問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国状況と比べて低位層が少なく、中・高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての領域において、概ね本市の正答率は全国を上回っている。

○「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての領域において、本市の無解答率は全国値を下回っている。

○「話すこと・聞くこと」の領域においてはすべての問題について正答率、無解答率ともに全国より良好な結果である。

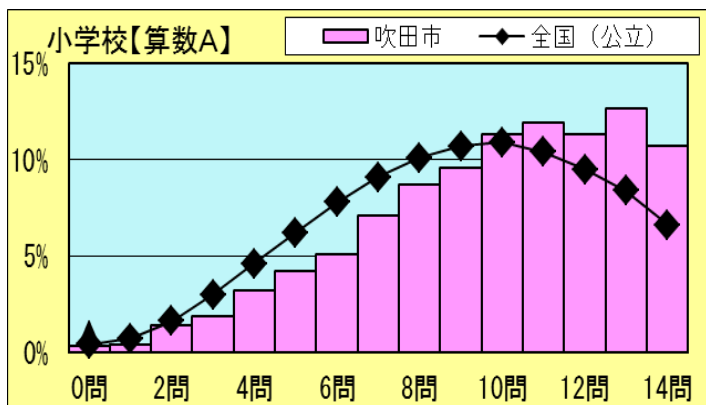
○「書くこと」の領域において、概ね全国値を上回ってはいるが、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率は全国値をわずかに上回るにとどまり、課題である。

○「読むこと」の領域においては、目的に応じて、必要な本や文章などを選んで読むという問題の正答率は全国値を5.5%上回っている。しかし、読み取ったことを基に、文章にして書くような「読むこと」と「書くこと」との複合型の問題になると、全国値を下回っており、課題が見られる。

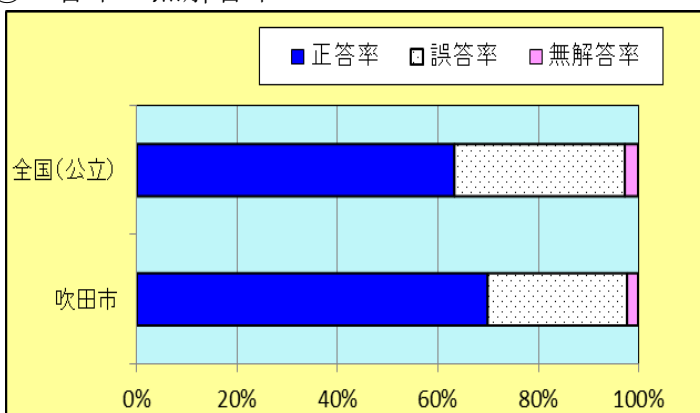
○8問中4問で無解答率が全国値を上回っている。記述式問題だけでなく、選択式問題でも無解答率が高いことが課題である。

【小学校 算数A】

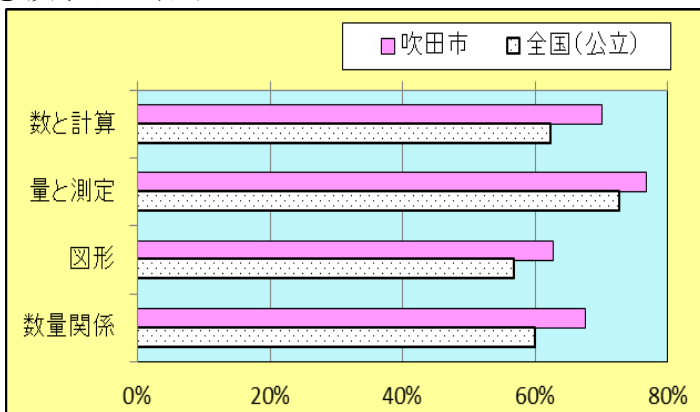
①正答数分布グラフ



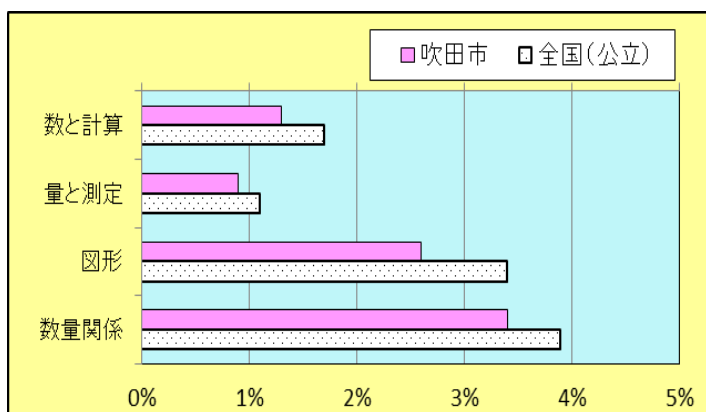
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、10問以上正答した児童の割合が全児童の50%を超え、全国状況と比べ、低位層が少なく、高位層が非常に多い。

○「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「数と計算」の領域において、「 $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ」では、正答率が50%を下回り、小数の除法の意味の理解に課題がある。

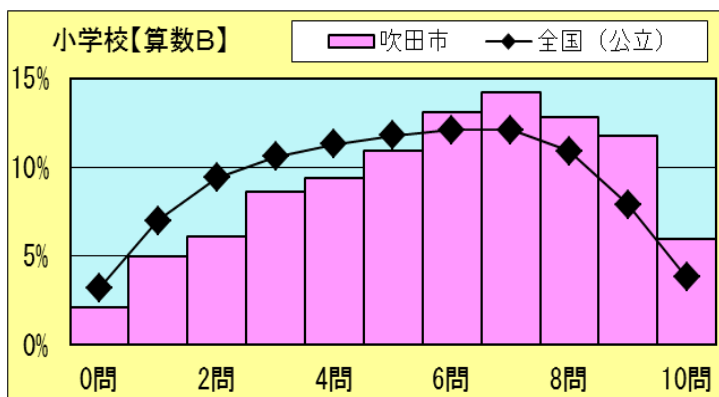
○「量と測定」の領域の問題、「混み具合を比べる」では、単位量あたりの大きさを求める除法の、式と商を表すことに課題がある。

○「図形」の領域では、「円周率を求める式」の正答率が50%を下回り、円周率の意味の理解に課題がある。

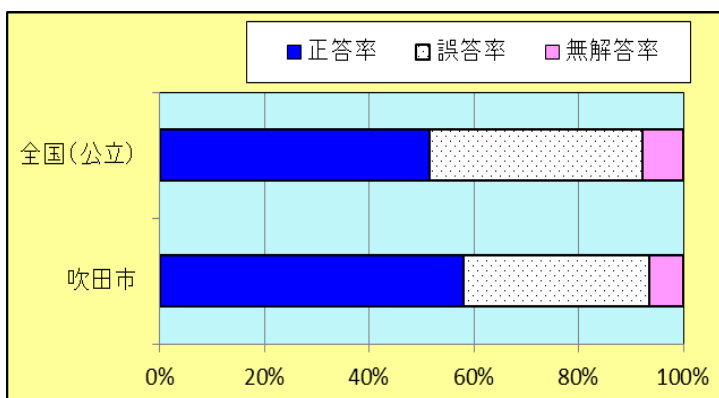
○「数量関係」の領域では、「全体の人数から割合を求め百分率で表す」の正答率が59%で、百分率の理解に課題がある。

【小学校 算数B】

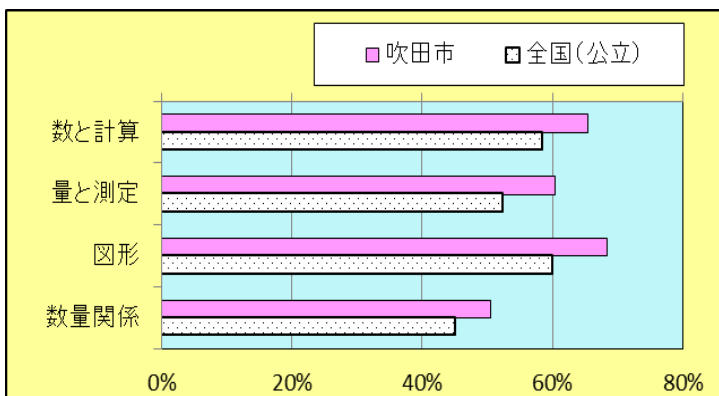
①正答数分布グラフ



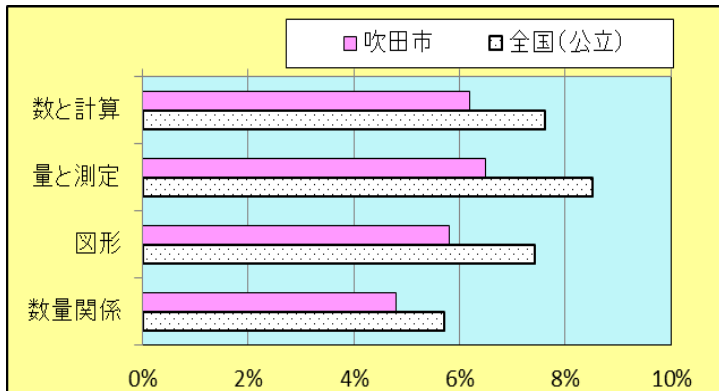
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、7問を頂点とする山型を描き、全国と比較して低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と計算」「量と測定」「数量関係」「図形」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「数と計算」領域の問題、「黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙が100枚あれば足りる理由を説明する」の正答率は53%で、示された数量を関連付け、根拠を明確にして記述することに課題がある。

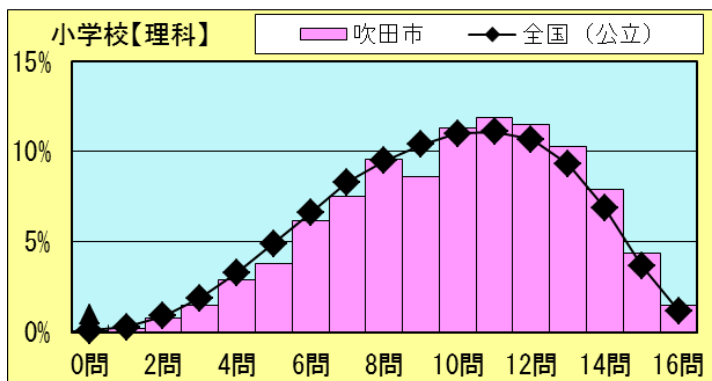
○「量と測定」領域の問題、「玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための時間を表に整理する」の正答率は55%で、条件に合うものを計算で見つけたり、判断したりすることに課題がある。

○「図形」領域の問題、図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することに課題がある。

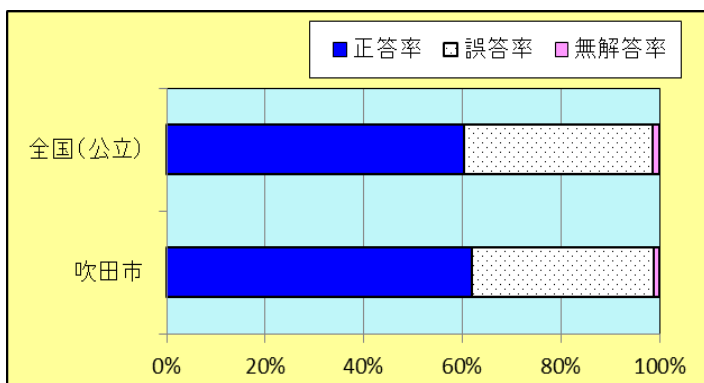
○「数量関係」の領域では、メモの情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目していることを解釈し、記述することに課題がある。

【小学校 理科】

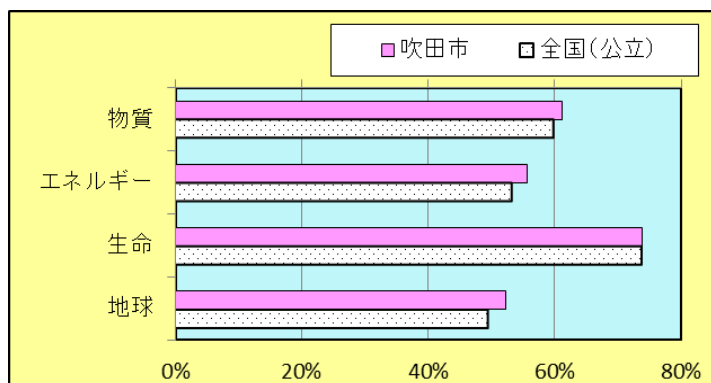
①正答数分布グラフ



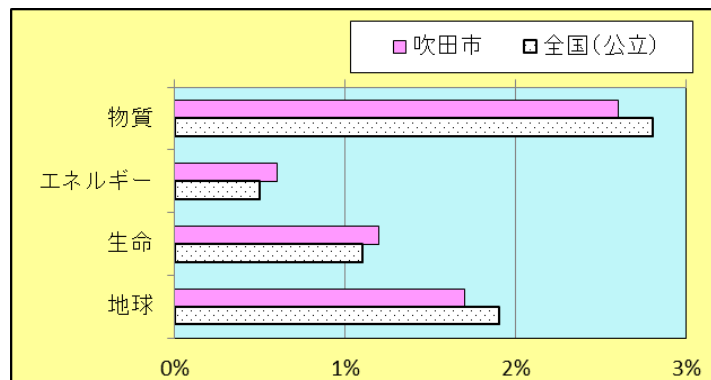
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、11問を頂点とする山型を描き、全国（公立）の状況と比べてやや低位層が少なく、高位層が多い。

○「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のすべての領域において、本市の正答率は全国（公立）を上回っている。

○「物質」「地球」の領域において、本市の無解答率は全国（公立）を下回っている。「エネルギー」「生命」の領域において、本市の無解答率は全国（公立）をやや上回っている。

○「物質」の領域では、物の溶け方の規則性を、体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。

○「エネルギー」の領域では、目的を設定し、計測して制御する活動を行う際に、既習事項を活用することに課題がある。

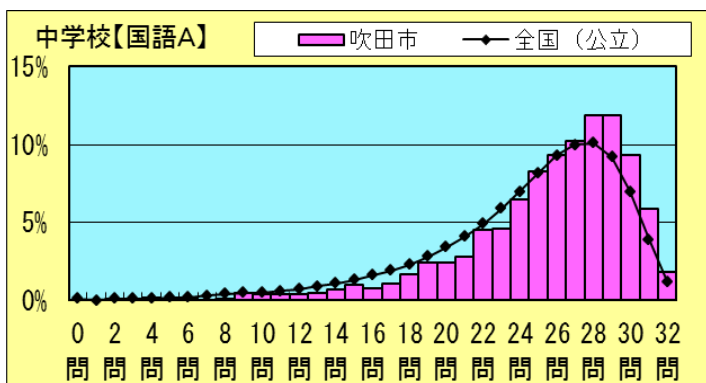
○「短答式」の問題の平均正答率が、全国（公立）を下回っており、科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。

○観察・実験の技能を問う問題は、正答率が全国（公立）値を上回っている。

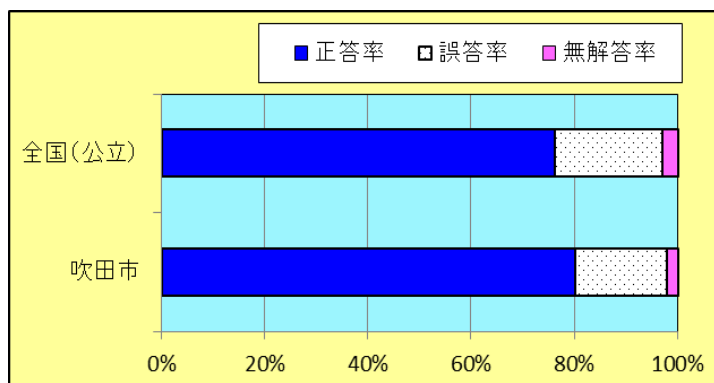
○実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述する問題の平均正答率は、全国（公立）を大きく上回っているものの、平均正答率は25.2%と低く、課題である。

【中学校 国語A】

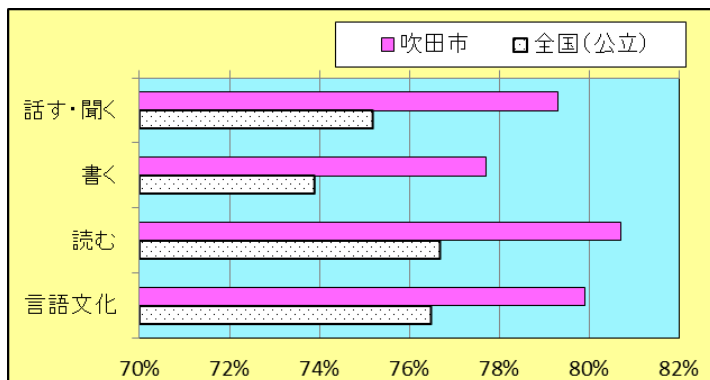
①正答数分布グラフ



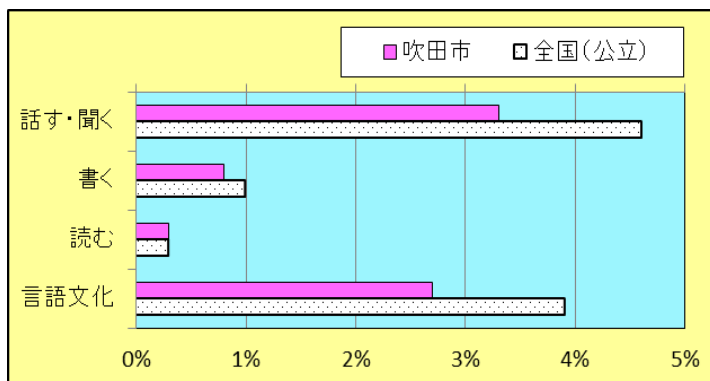
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、28問、29問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国と比較して低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」すべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」すべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

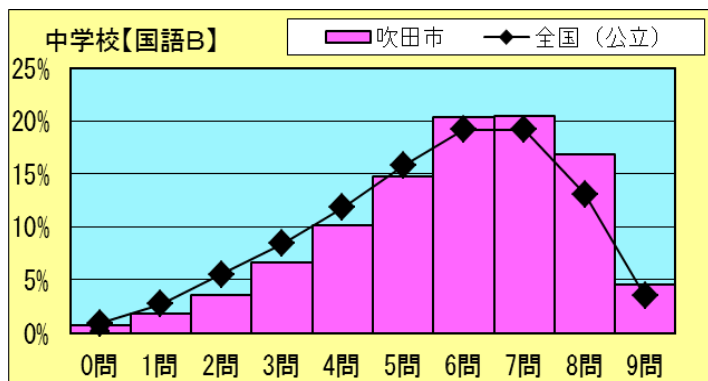
○「言語文化」の領域では、適切な語句を選択する問題において、6問中5問は全国の前正答率を上回っているが、「せきを切る」の語句の意味を問う問題は、全国の前正答率を下回っている。

○漢字を書く問題においては、3問すべての問題において全国の前正答率を大きく上回っている。漢字を読む問題においては、3問中2問は全国の前正答率を上回っているが、「池の水が凍る」の問題は、わずかに下回っている。

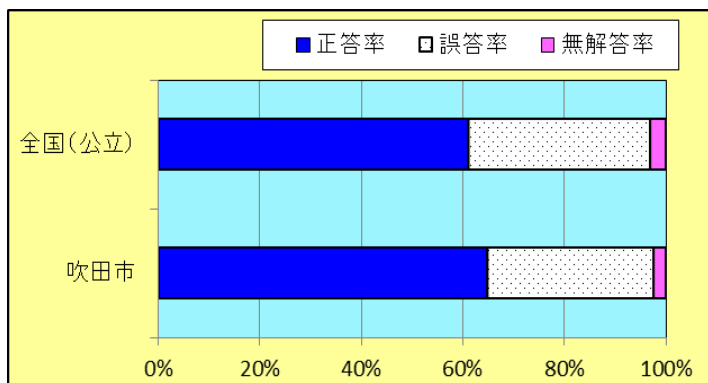
○「短答式」の問題は、全10問中7問が全国の前正答率を大きく上回っている。

【中学校 国語B】

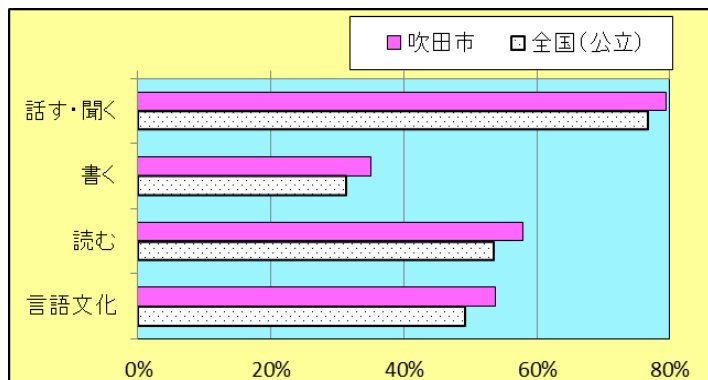
①正答数分布グラフ



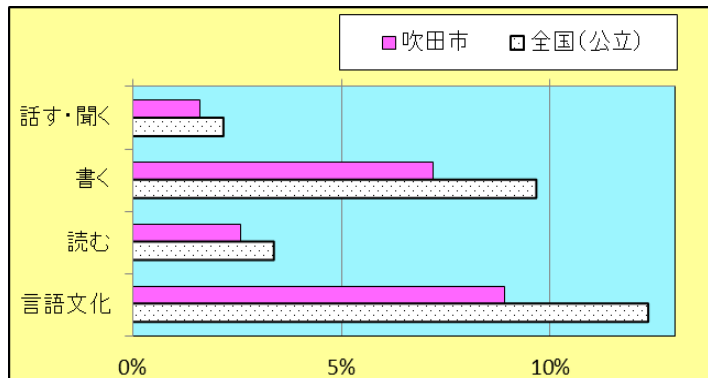
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、全国と同様7問を頂点とする右寄りの山型を描いているが、全国状況と比べて低位層は少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「選択式」の問題は、6問中4問が全国の平均正答率を上回っており、1問が大きく上回っている。

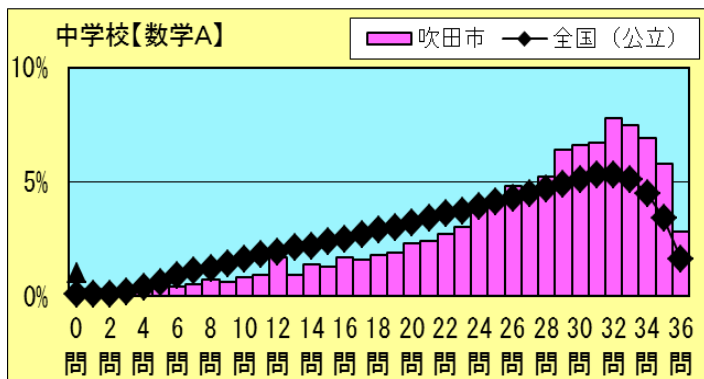
○「記述式」の問題は、すべての問題において、全国の平均正答率を上回っている。

○相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題は、全国の無解答率を下回ってはいるが、本市国語B問題中、無解答率が8.9%と最も高く、課題である。

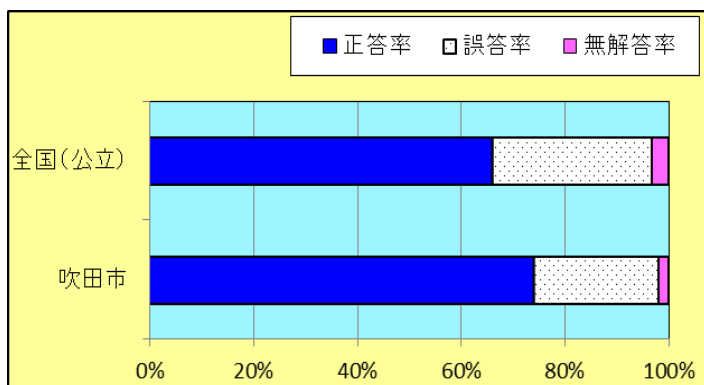
○文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える問題については、全国の平均正答率を3.6%上回ってはいるが、正答率は50%を下回っており、課題である。

【中学校 数学A】

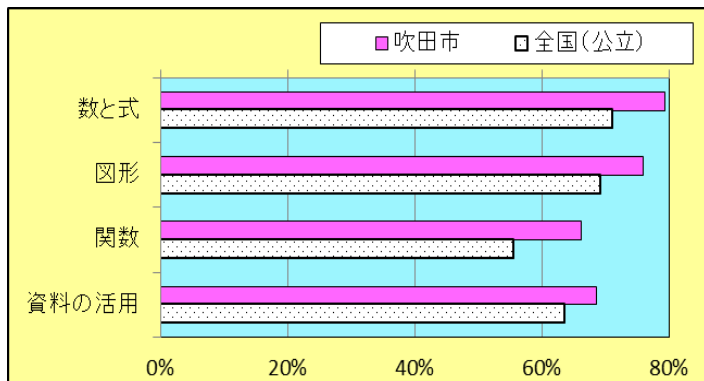
①正答数分布グラフ



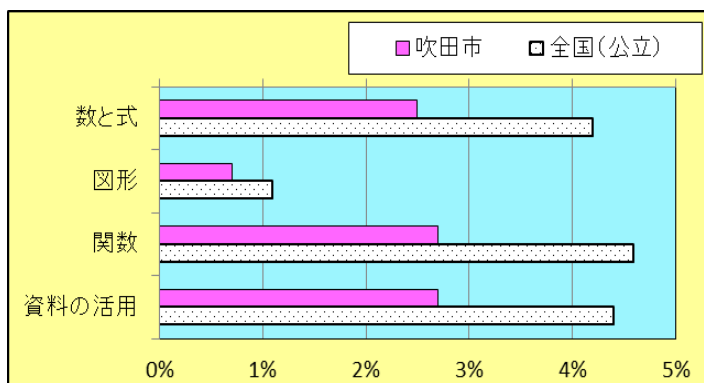
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、32問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国との状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「数と式」「図形」「関数」の領域において、知識・理解や技能を問う問題について正答率の高いものが多い。

○「数と式」領域の問題、「数量の関係を表した不等式を書く」の正答率が50%を下回り、数量の大小を不等式で表すことに課題がある。

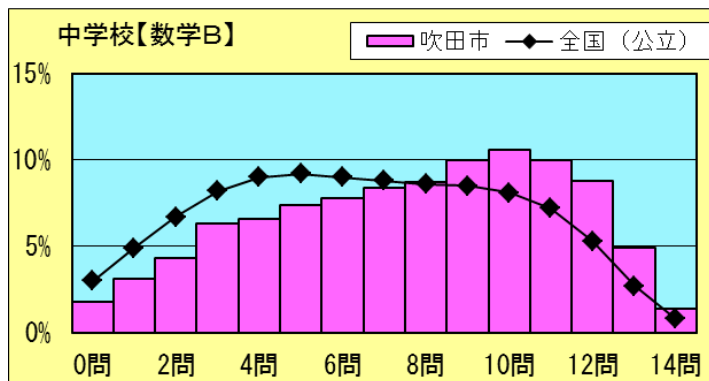
○「図形」領域の問題、「対頂角は等しいことの証明」の正答率が50%を下回り、証明の理解に課題がある。

○「関数」領域の問題、「歩いた道のりと、残りの道のりの関係」の正答率が50%を下回り、一次関数の理解に課題がある。

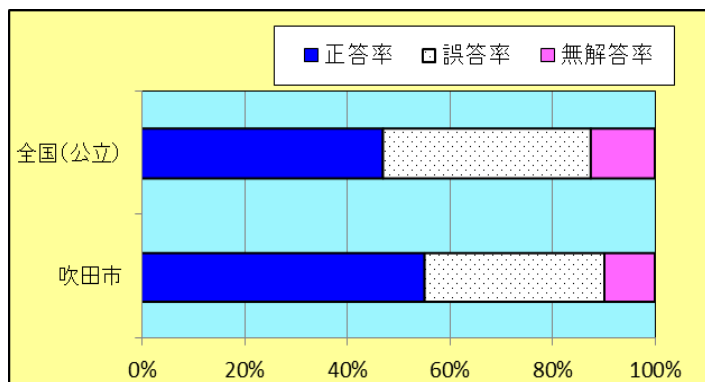
○「資料の活用」領域の問題、「1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子」の正答率が50%を下回り、多数回投げたときにおける確率の理解に課題がある。

【中学校 数学B】

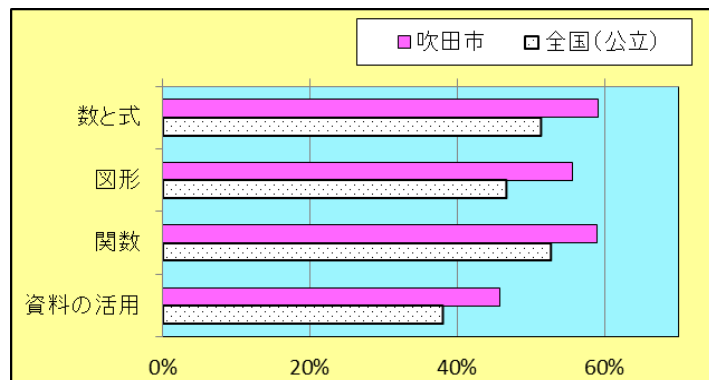
①正答数分布グラフ



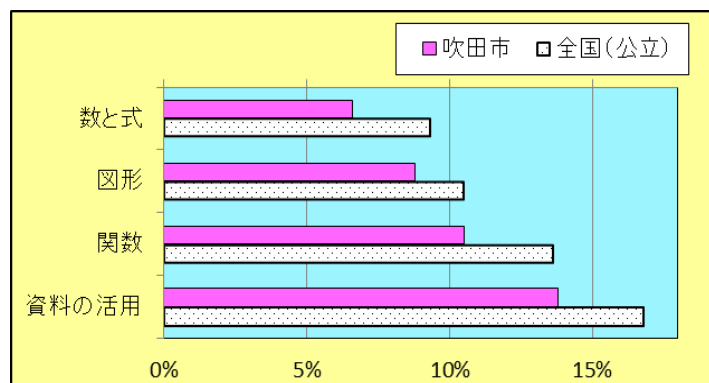
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、10問を頂点とする山形を描き、全国の場合と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

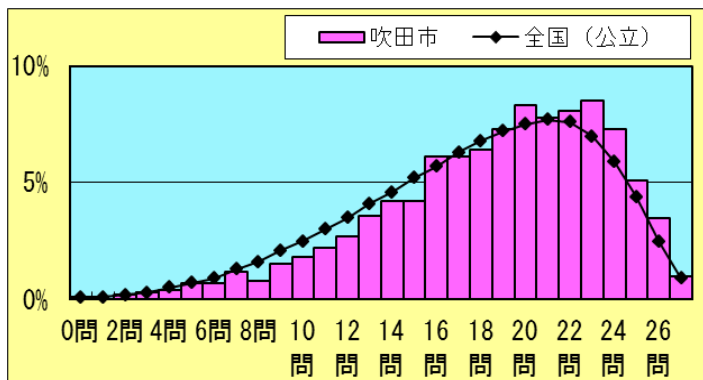
○「数と式」領域の問題、「団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める式を選び、その理由を説明する」の正答率が20%を下回り、計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○「関数」領域の問題、「列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」の正答率が20%を下回り、無解答率も高く、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

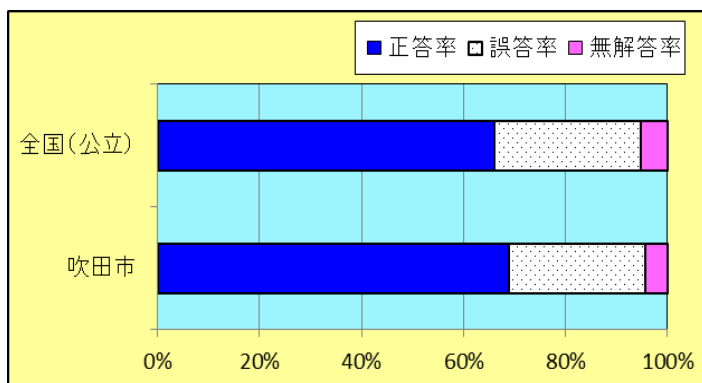
○「資料の活用」領域の問題、「団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く」の正答率が30%を下回り、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。

【中学校 理科】

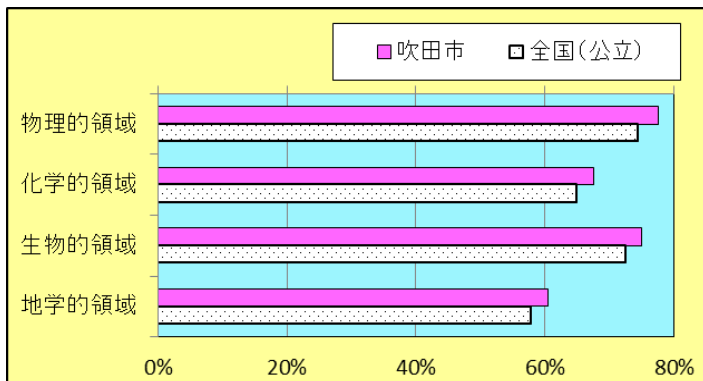
①正答数分布グラフ



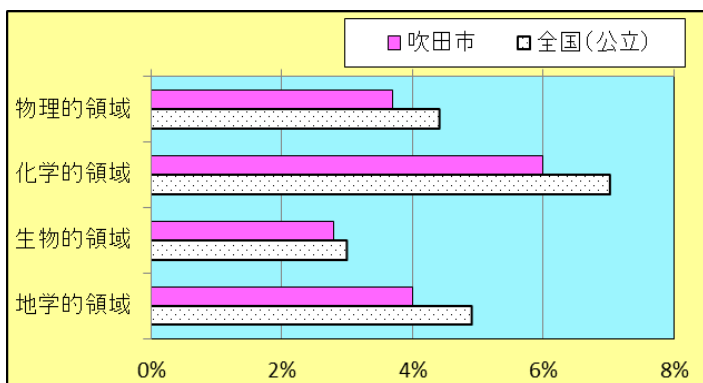
②正答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、23問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国（公立）の状況と比べて低中位層が少なく、高位層が多い。

○「物理」「化学」「生物」「地学」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「物理」「化学」「生物」「地学」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「水溶液の濃度と無脊椎動物の関係性」等、複合的な知識を問う記述式問題において、正答率が全国平均を下回り、無解答率も高く、課題である。

○「蒸散と湿度」に関する記述式問題において、正答率が30%を下回り、科学的な思考・表現を用いて説明することに課題がある。

○「実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件抑制」に関する記述式問題において、正答率が50%を下回り、課題がある。

○「電流と抵抗」に関する問題において正答率が高い。全国正答率と比較すると、電流は5.6%、抵抗は8.9%高く、いずれも大きく上回っている。

(3) 各教科問題別分析

【問題別分析 小学校 国語A】

◇すべての問題について、正答率は全国平均を上回り、概ね良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習 区分 指導 等 要 領 の	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	話す・聞く	90.8	92.9	○
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	書く	73.8	78.5	○
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、 【オムレツのページ】をどのように読めばよい か、適切なものを選択する	読む	73.9	76.9	○
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを 一文を取り上げて説明する際に、その一文が心 に残った理由として適切なものを選択する		74.0	77.6	○
5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と ——部とのつながりが合っていない文を選択 し、正しく書き直す	言語事項	35.5	42.0	◎
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択 する(心を打たれる)		90.4	92.4	○
7	【話を聞いている様子の一部】の ア , イ に入る内容の組み合わせとして適切 なものを選択する		56.0	62.0	◎
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)		73.4	77.6	○
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)		82.2	87.3	◎
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)		82.2	85.3	○
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)		65.0	69.8	○
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)		51.4	57.7	◎

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5%以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9%上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の前答率を2～4.9%下回る	△
全国の前答率を5%以上下回る	×

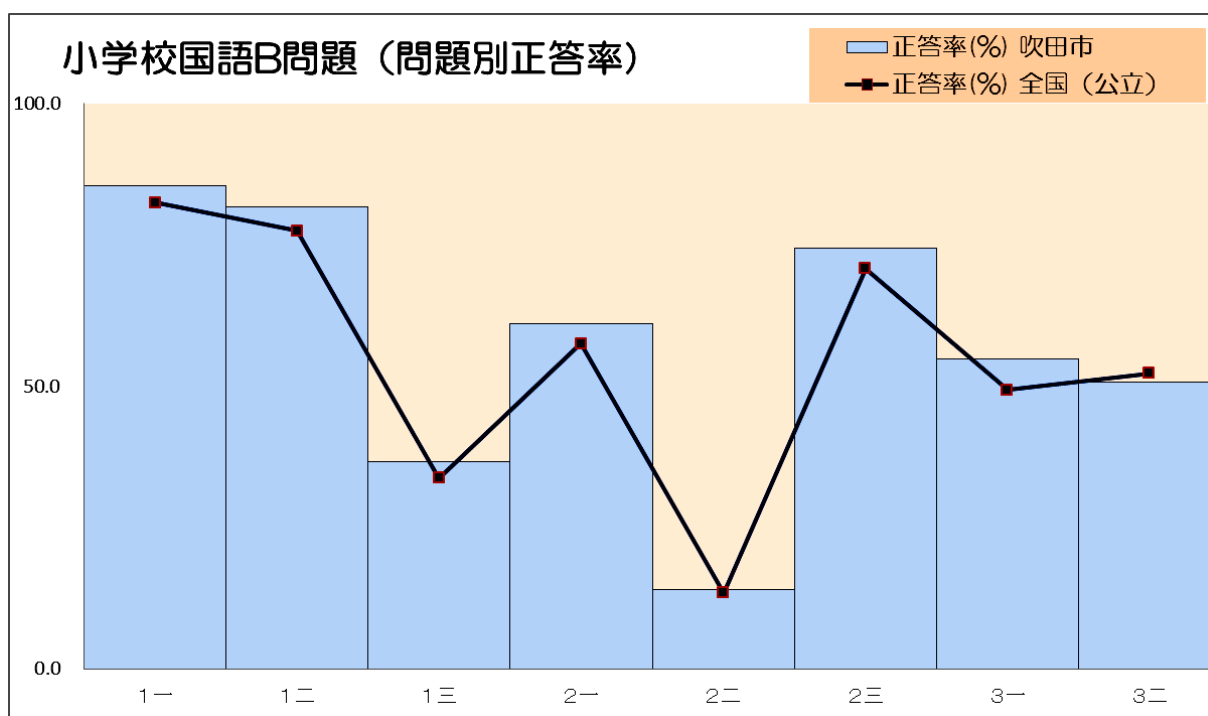
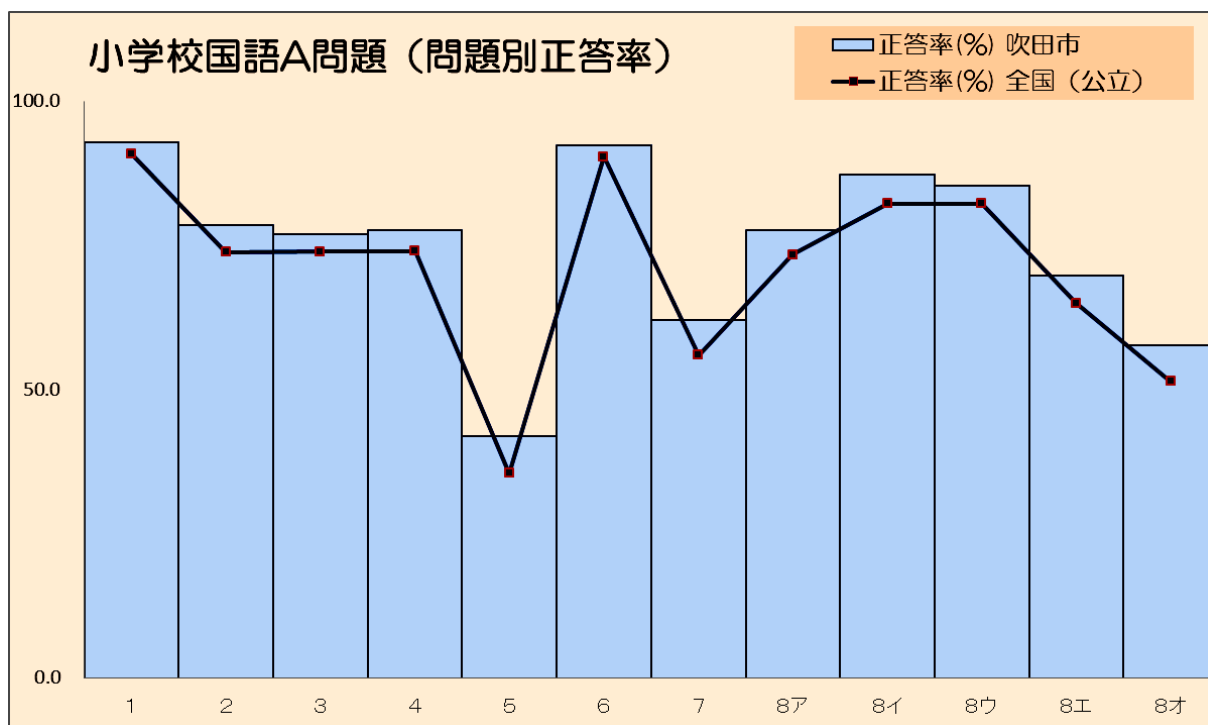
【問題別分析 小学校 国語B】

◇ほとんどの問題について、正答率は全国平均を上回っていたが、『3二』の問題に課題が見られた。

問題番号	問題の概要	学習 区分等 指導要領の	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話す・聞く	82.5	85.4	○
1二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する		77.5	81.8	○
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く		33.8	36.7	○
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く	書く	33.8	36.7	○
2一	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に のように書いた理由として適切なものを選択する		57.6	61.0	○
2二	【おすすめする文章】の に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く		13.5	14.0	—
2三	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する		70.8	74.4	○
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 最も心がひかれた一文とその理由の文章の に入る内容を書く		52.3	50.7	—
3一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	読む	49.4	54.9	◎
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 最も心がひかれた一文とその理由の文章の に入る内容を書く		52.3	50.7	—

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以下下回る	×



【課題の見られる問題】

●問題番号

小学校 国語B・3 二

●問題の概要

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことができるかどうかをみる。

本問題は、伝記「湯川秀樹」を読んで、最も心がひかれた一文を選んだ理由を書く場面が設定されている。ここでは、「ノートの一部」のC最も心がひかれた一文とその理由の「」に、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文に心がひかれたのかについて、【伝記「湯川秀樹」の一部】の中から、湯川博士の具体的な行動を取り上げて書くことが求められる。

●課題とその改善を図るために

吹田市 (かつこ内は全国値)

正答率 50.7% (52.3%)

無解答率 11.3% (11.9%)

「書くこと」「読むこと」の重複問題

〈正答について〉

次の条件を満たして解答していることが求められる。

- ①なぜ、「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文に心がひかれたのかを考えて書いている。
- ②【伝記「湯川秀樹」の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。
- ③書き出しの言葉に続けて、60字以上、100字以内で書いている。

本市においては、条件①は満たしているが、条件②【伝記「湯川秀樹」の一部】から言葉や文を取り上げて書いていないものや、言葉や文を取り上げて書いているが、なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文に心がひかれたのかについて書いていない解答が全国値よりも多かった。

改善を図るための具体的な方策として、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える学習や、事実と感想、意見などを自分の伝えたいことや目的に合わせてうまく結びつけ、詳しく書くような学習を積み上げていくことが大切である。

「自分の力で、やれるところまでやってみよう」

この言葉は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたことがない、と留学の話を断ったときの湯川博士の言葉である。湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

山本さん、最も心がひかれた一文として、Bの中から「自分の力で、やれるところまでやってみよう」とを選びました。そして、「ノートの一部」のCを書いたために、もう一度伝記「湯川秀樹」を読み返しています。次の【伝記「湯川秀樹」の一部】を読み、Cに入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

湯川秀樹 (一九〇七年～一九八一年)

物理学者。全てのものは原子に小さくつぶらなっており、そのつらに新しい考えを導き出した。その後、日本人で初めてノーベル賞を受賞し、戦後の日本に希望をもたらした。

心に燃つた行動や進んだこと

おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。湯川博士は、おきな、と留学の話を断ったとき、湯川博士の言葉である。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

山本さん、最も心がひかれた一文として、Bの中から「自分の力で、やれるところまでやってみよう」とを選びました。そして、「ノートの一部」のCを書いたために、もう一度伝記「湯川秀樹」を読み返しています。次の【伝記「湯川秀樹」の一部】を読み、Cに入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

問題番号	問題の概要	学習 指導 領域等 要領の	正答率(%)		全国 との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1ー	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話す・聞く	87.4	90.0	○
6ー	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する		72.4	75.9	○
6二	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く		65.8	72.0	◎
2ー	図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する	書く	89.5	91.7	○
2二	二つの意見の内容を一文で書き加える		64.0	69.7	◎
4ー	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する		62.8	66.8	○
4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する		79.4	82.6	○
3ー	「それは掛け値のない一、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する	読む	88.2	90.0	—
3二	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する		82.8	86.8	○
5ー	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する		76.3	82.0	◎
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する		59.5	64.1	○
7ー	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナйкаダ）	伝統的な言語 文化事項 国語の特質に	87.3	88.7	—
7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する		88.4	92.2	○
8ー1	漢字を書く（紙をひもで <u>タ</u> バねる）		79.0	84.6	◎
8ー2	漢字を書く（舞台の <u>マ</u> クが上がる）		72.9	77.9	◎
8ー3	漢字を書く（先制点を <u>ユ</u> ルす）		71.4	78.0	◎

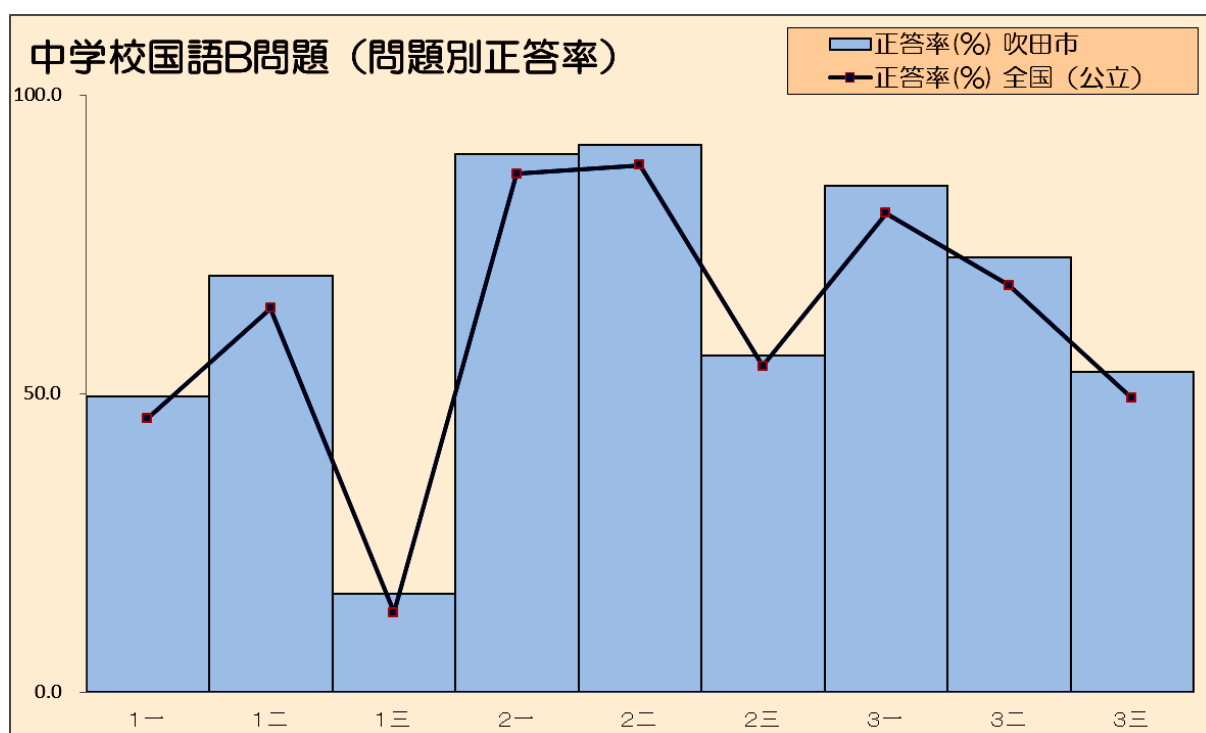
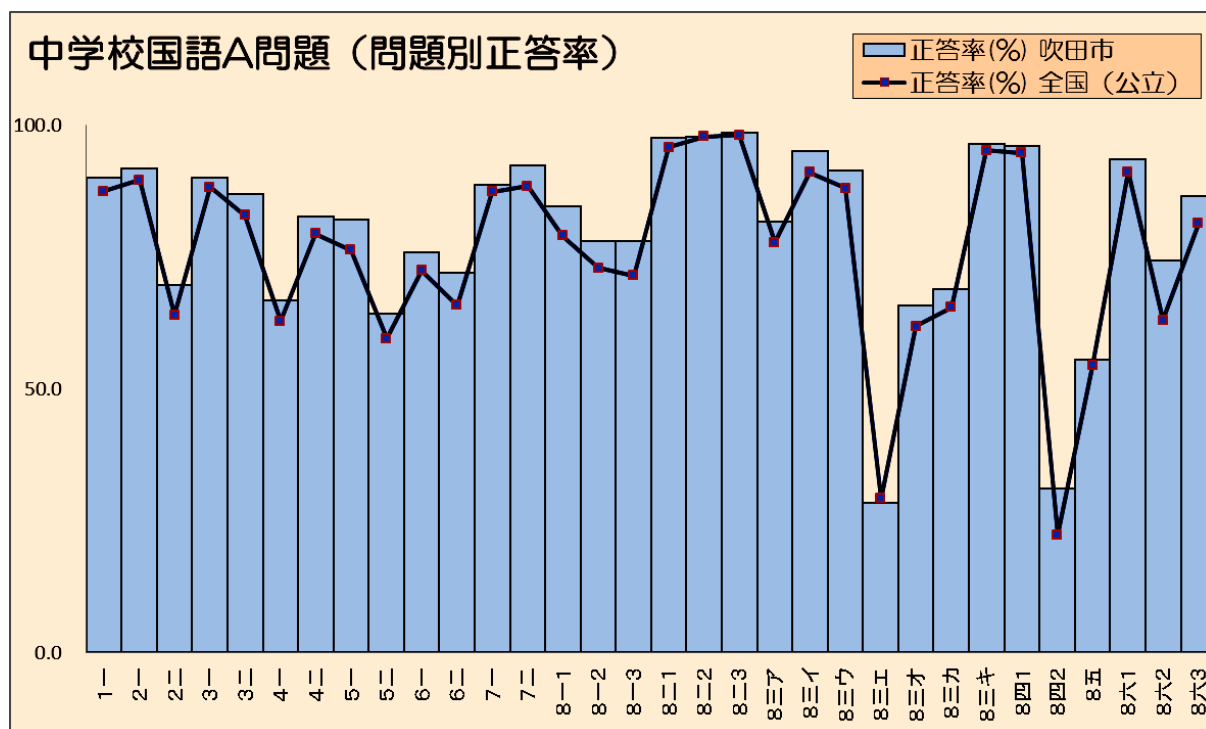
問題番号	問題の概要	学習指導要領の 領域等	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
8 二 1	漢字を読む（ <u>模型</u> を作る）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	95.7	97.5	—
8 二 2	漢字を読む（池の水が <u>凍</u> る）		97.8	97.7	—
8 二 3	漢字を読む（技を <u>磨</u> く）		98.1	98.4	—
8 三 ア	適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は終始 <u>一貫</u> して変わらず、最後まで結論が出なかった）		77.7	81.6	○
8 三 イ	適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ <u>習性</u> をもつものがある）		91.0	95.0	○
8 三 ウ	適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことを <u>おっしゃった</u> ）		88.0	91.3	○
8 三 エ	適切な語句を選択する（彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた）		29.2	28.3	—
8 三 オ	適切な語句を選択する（意見の折り合いを <u>つける</u> ）		61.8	65.7	○
8 三 カ	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 <u>ひとえに</u> 母のおかげです）		65.4	68.9	○
8 三 キ	適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。 <u>一方</u> 、妹は一人で本を読むことが好きだ）		95.2	96.4	—
8 四 1	「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する		94.7	95.9	—
8 四 2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く		22.3	31.0	◎
8 五	作品への助言として適切なものを選択する		54.4	55.5	—
8 六 1	『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく）		91.1	93.4	○
8 六 2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）		63.0	74.2	◎
8 六 3	『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する		81.3	86.4	◎

◇すべての問題について、正答率は全国平均を上回り、概ね良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の 領域等	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1ー	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	読むこと	45.9	49.5	○
1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する		64.3	69.8	◎
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がある理由を書く		13.3	16.4	○
3ー	登場人物についての説明として適切なものを選択する		80.2	84.9	○
3二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する		68.2	72.8	○
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く		49.2	53.7	○
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がある理由を書く	書くこと	13.3	16.4	○
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く		49.2	53.7	○
2ー	二人の質問の意図として適切なものを選択する	話す・聞く	86.8	90.2	○
2二	二人に続いてする質問を書く		88.3	91.6	○
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する		54.6	56.4	—
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.2	53.7	○

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×



【課題の見られる問題】

●問題番号

中学校国語 B・23

●問題の概要

「総合的な学習の時間」において、ロボットについて調べたことや考えたことを発表するという場面が設定されている。話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問したり、聞き手とのやりとりを踏まえながら、話の全体として伝えたいことを明確にして話したりすることを求めている。

出題の趣旨としては、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことができるかどうかをみるものである。

●課題とその改善を図るために

本問題は、本市における正答率が56.4%(全国正答率 54.6%)、無解答率が0.4%(全国無解答率0.4%)であり、全国平均正答率を1.8%上回っている。

しかし、正答率が低く、正答の「1」以外に、「2」と解答しているものが19.5%(全国 21.8%)、「4」と解答しているものが13.9%(全国 12.5%)と、解答にばらつきが見られる。

正答である「1」は、発表の目的に応じ、全体と部分との関係に注意して聞き手の反応を踏まえながら話すことができているのに対し、「2」及び「4」は、資料の中の3の情報を取り上げ「ロボットに期待すること」について述べることができておらず、目的に合った話の進め方ができていない選択肢である。これらを選択した生徒は、聞き手に伝えたいことは何なのかを、常に意識して発表することが理解できていないと考えられる。

改善を図るための具体的な方策として、この発問のように、調べたことや考えたことを発表する学習では、めあてを持って取り組む必要がある。発表者には、伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために表現を工夫したり、相手の反応を踏まえながら話したりすることに留意させる。聞き手には、相手が言いたいことを確かめるためや、足りない情報を聞き出すための質問を事前に考えさせる等、相手の話を聞きながら必要に応じて質問し、自分の考えを整理できるように指導することが大切である。

- 三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえた上で、【資料】の中の3の情報を取り上げながら発表をまとめる。
 - 2 聞き手とのやりとりを通して生まれた新たな考えをもとに、【資料】の中の1と2の情報を使って発表をまとめる。
 - 3 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりは踏まえずに、【資料】の中の3の情報を使って発表をまとめる。
 - 4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、【資料】の中の3の情報に触れずに発表をまとめる。

ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

人型のロボット



動物型のロボット



2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
 - ・ 簡単な日常会話をする。
 - ・ ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
 - ・ 一人一人の顔を覚える。
 - ・ 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- ・ 65歳以上の人口の割合は、2060年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- ・ 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。

(総務省ウェブサイトによる。)

2

山川さんは、総合的な学習の時間に、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した【資料】、【発表の直前の場面】と、それに続く【発表・質問の場面の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(発表の直前の場面)の中は、頭の中で考えていることを表します。

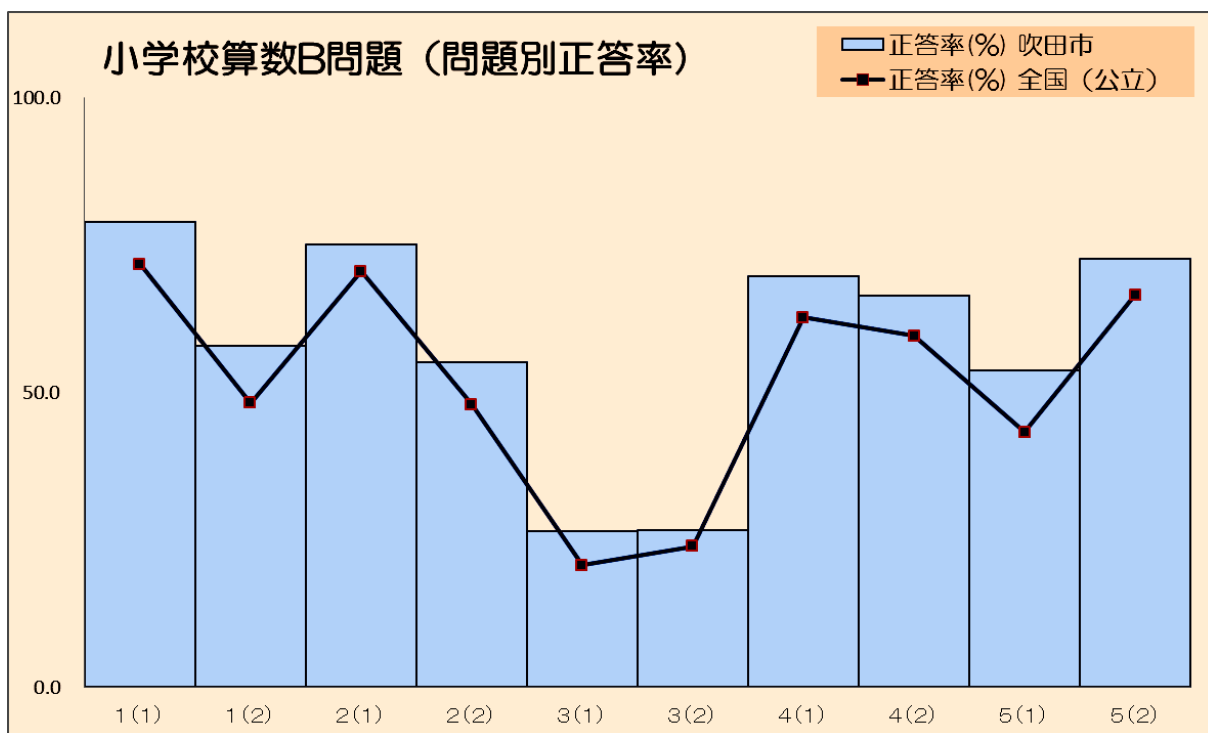
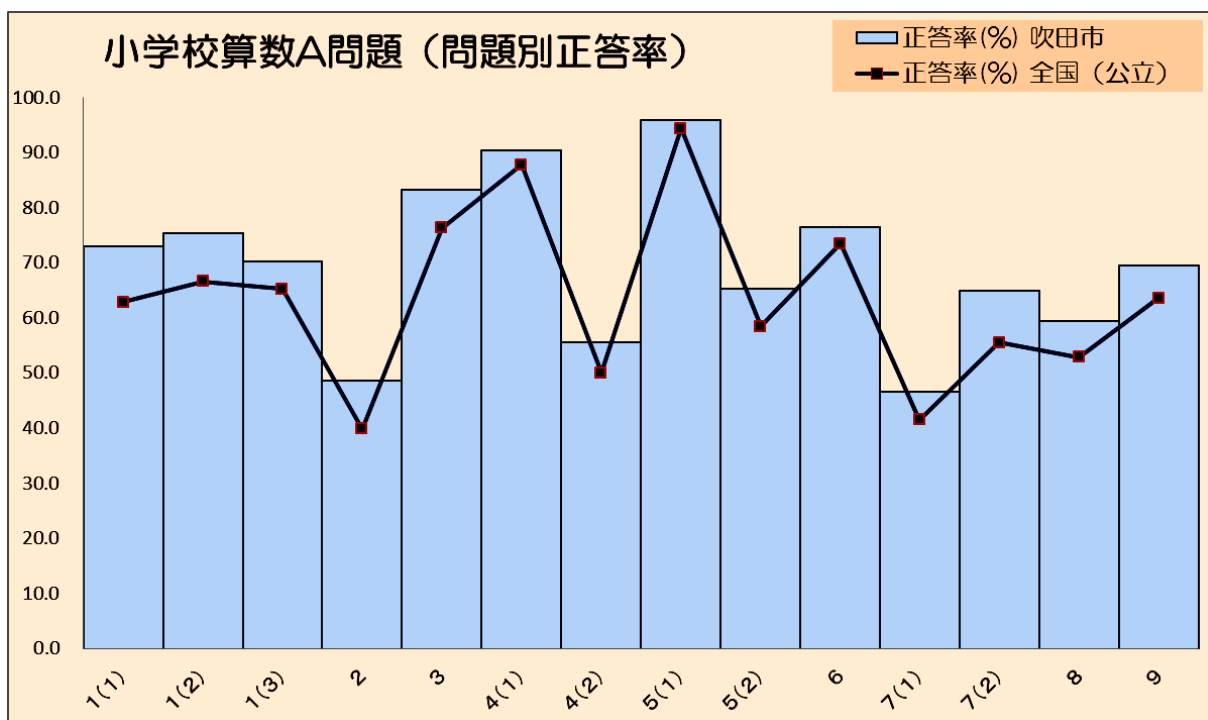
【資料】

【問題別分析 小学校 算数A】

◇すべての問題について、正答率は全国平均を上回り、良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習 区分 指導 要領 の	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	数と計算	62.9	73.0	◎
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ		66.7	75.4	◎
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ		65.3	70.3	◎
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ		39.9	48.7	◎
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く		76.4	83.3	◎
4 (1)	面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	量と測定	87.8	90.5	○
4 (2)	㊨と㊩の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ		50.1	55.6	◎
5 (1)	角㊰の角の大きさが、何度であるかを選ぶ		94.4	96.0	—
5 (2)	分度器の目盛りを読み、 180° よりも大きい角の大きさを求める		58.5	65.3	◎
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	図形	73.5	76.6	○
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ		41.6	46.7	◎
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ		55.6	64.9	◎
1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	数量関係	62.9	73.0	◎
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ		65.3	70.3	◎
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ		55.6	64.9	◎
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ		52.9	59.5	◎
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ		63.6	69.5	◎

問題番号	問題の概要	学習指導要領の区分等	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	図形	71.7	78.8	◎
1(2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く		48.2	57.8	◎
1(2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	量と測定	48.2	57.8	◎
2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く		70.5	75.0	○
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める		47.9	55.1	◎
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く		43.2	53.6	◎
2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	数量関係	70.5	75.0	○
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める		47.9	55.1	◎
3(1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く		20.7	26.4	◎
3(2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ		23.9	26.6	○
4(1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す		62.7	69.6	◎
2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	数と計算	70.5	75.0	○
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める		47.9	55.1	◎
4(1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す		62.7	69.6	◎
4(2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く		59.5	66.4	◎
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く		43.2	53.6	◎
5(2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ		66.5	72.6	◎



【課題の見られる問題】

●問題番号

小学校 算数B・**3** (1)

●問題の概要

日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができるかをみる。

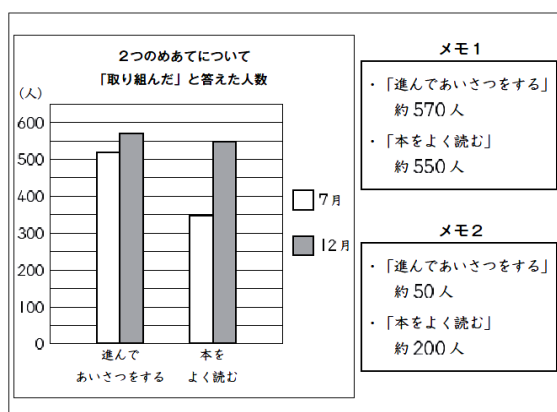
メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみるものである。

3

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。



えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。



メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。



メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

●課題とその改善を図るために

吹田市 (かっこの中は全国値)

正答率 26.4% (20.7%) 無解答率 15.5% (18.0%)

メモ1が12月の人数に着目して書かれていることは解答できていたが、メモ2が7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれていることについて解答できていなかった。示された数値が、2つの月の人数の差であることを捉えることはできていないと考えられる。

改善を図るための具体的な方策としては、低学年からグラフの特徴を複数の観点で捉える学習を重ねることが考えられる。総数で比べる、差で比べる、共通点を見つける、変化の大きさに着目する等グラフの種類に応じて有効な観点を見つけ、互いの見取り方について意見を出し合う活動などを取り入れる。他者の意見を聞く際には、グラフのどの部分に着目して情報を読み取ったのかを考えながら聞かせ、必要な情報を得るためにはどの観点に着目するのがよいか、話し合わせることも有効である。あえて有効ではない観点を示し、児童の思考を揺さぶる等の工夫も大切である。

【問題別分析 中学校 数学A】

◇すべての問題について、正答率は全国平均を上回り、良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の 領域	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る	数と式	94.6	96.4	—
1 (2)	絶対値が6である数を書く		69.0	81.0	◎
1 (3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する		68.9	78.6	◎
1 (4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ		54.2	60.4	◎
2 (1)	「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く		41.5	45.8	○
2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する		91.0	95.6	○
2 (3)	$a=3$, $b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める		78.5	87.0	◎
2 (4)	等式 $S=\frac{1}{2}ah$ を, a について解く		48.2	64.3	◎
3 (1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ		64.0	76.8	◎
3 (2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く		87.8	93.2	◎
3 (3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く		80.0	88.4	◎
3 (4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び, 式で表す		75.2	82.7	◎

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5%以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9%上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の前答率を2～4.9%下回る	△
全国の前答率を5%以上下回る	×

問題番号	問題の概要	学習指導要領の 領域	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
4 (1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	図形	67.1	71.2	○
4 (2)	△ABCを辺ABが辺ACに重なるように折った線 を作図するための線を選ぶ		54.9	60.1	◎
4 (3)	長方形ABCDを、点Aを中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかく		66.1	72.1	◎
5 (1)	直方体において、与えられた面に平行な辺を書 く		74.3	83.5	◎
5 (2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の 名称を書く		82.4	87.5	◎
5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影 図を選ぶ		83.7	89.8	◎
5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四 角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ		57.6	67.1	◎
6 (1)	三角形の外角を表す式を選ぶ		71.4	81.8	◎
6 (2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正し いものを選ぶ		75.7	82.8	◎
7 (1)	△ABCと△DEFが合同であるための条件とし て、正しいものを選ぶ		72.0	80.7	◎
7 (2)	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを 選ぶ		78.2	83.6	◎
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述 を選ぶ		45.5	49.6	○

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
9 (1)	比例 $y = 5x$ について、正しい記述を選ぶ	関数	65.5	75.6	◎
9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める		55.0	67.7	◎
9 (3)	反比例のグラフから表を選ぶ		52.8	62.2	◎
10	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す		69.9	81.7	◎
11 (1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める		45.3	58.9	◎
11 (2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ		56.3	67.6	◎
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ		36.4	43.5	◎
13	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ		62.7	71.8	◎
14 (1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	資料の活用	68.4	76.3	◎
14 (2)	反復横とびの記録の中央値を求める		74.0	76.4	○
15 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ		40.2	40.9	—
15 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める		71.3	80.1	◎

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

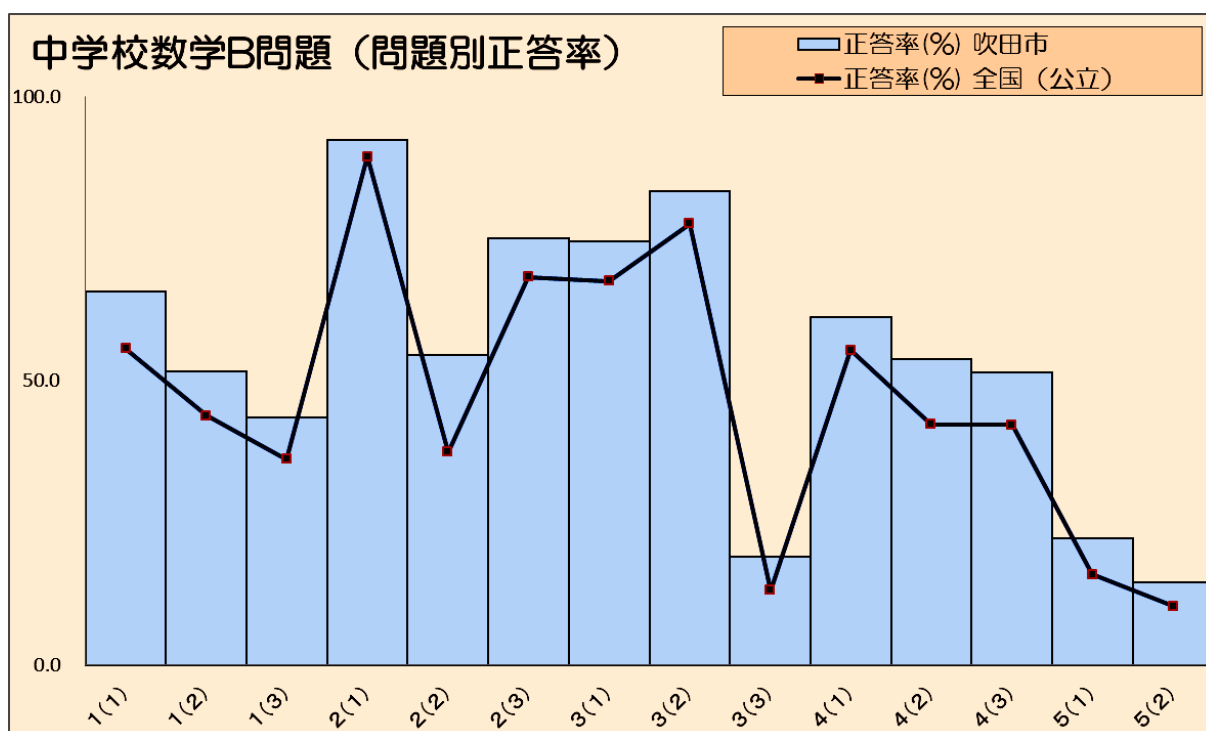
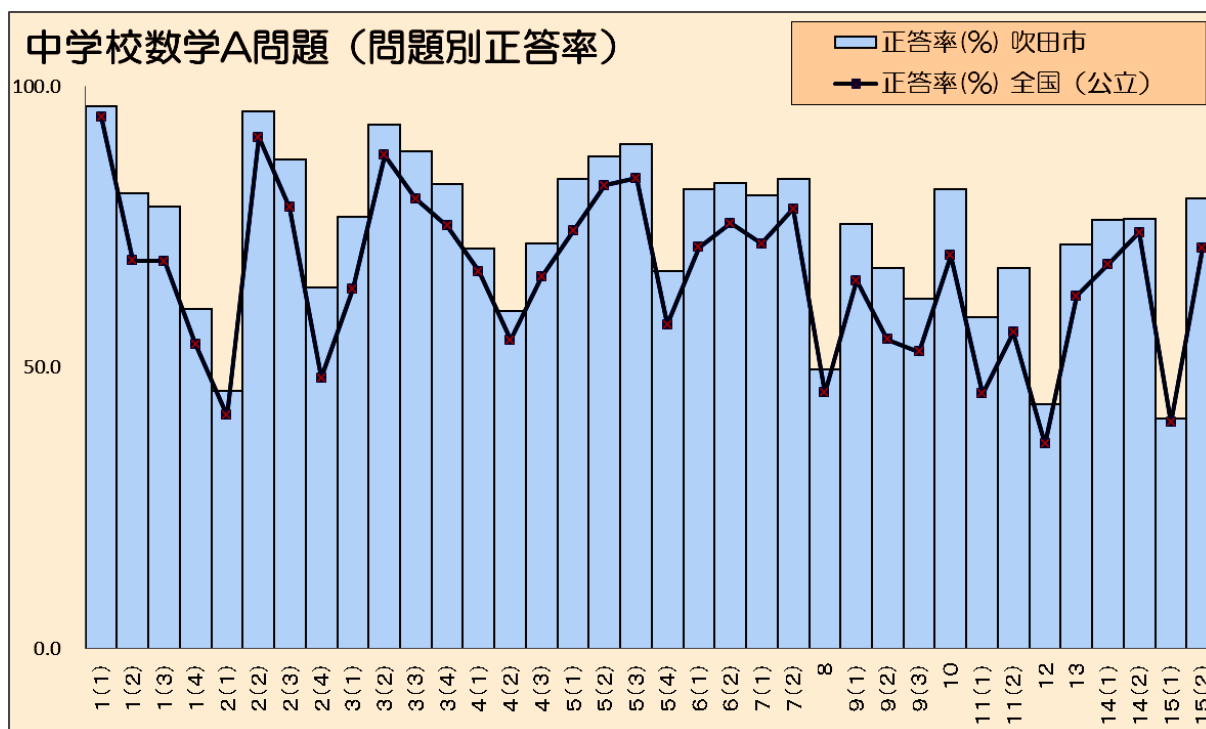
【問題別分析 中学校 数学B】

◇すべての問題について、正答率は全国平均を大きく上回り、良好な結果であった。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	資料の活用	55.7	65.8	◎
1 (2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める		43.9	51.7	◎
1 (3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する		36.2	43.5	◎
5 (1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く		16.0	22.4	◎
2 (1)	はじめの数が10のときの計算結果を求める	数と式	89.5	92.4	○
2 (2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する		37.5	54.5	◎
2 (3)	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める		68.3	75.1	◎
5 (2)	通常料金を a としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する		10.4	14.6	○
3 (1)	列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	関数	67.6	74.6	◎
3 (2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める		77.7	83.4	◎
3 (3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する		13.2	19.1	◎
4 (1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	図形	55.4	61.3	◎
4 (2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する		42.4	53.9	◎
4 (3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する		42.3	51.5	◎

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5%以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9%上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の前答率を2～4.9%下回る	△
全国の前答率を5%以上下回る	×



【課題の見られる問題】

●問題番号

中学校 数学 B・5 (2)

●問題の概要

通常料金を a としたときの団体料金の 10 人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。

- 5 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

- (2) 里奈さんは、T社の史跡巡りプランの場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めました。

●課題とその改善を図るために

吹田市 (かつこ内は全国値)

正答率 14.6% (10.4%)

無解答率 7.7% (6.6%)

本問題においては、計算結果を表した式に a が含まれていないことについて着目して記述した上で、数学的な表現を用いて説明することが求められている。式に着目して考察するのではなく、表から情報を抜き出して解答している場合や、式に着目できていても、説明方法が分からないことが、正答率の低さや無解答率の高さに繋がったと考えられる。

改善を図るための具体的な方策としては、

<数学的な結果を事象に即して解釈できるようにする>

日常的な事象の考察において、表、式、グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。

<事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする>

説明すべき事柄(B)とその根拠(A)を明確に区別し、「(A)であるから(B)である。」のように説明することが大切である。

例えば、「通常料金の9人分である」のように説明している例を取り上げ、この理由の説明として、十分なものになっているかどうかを検討する場面を設定することが考えられる。

ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて、簡潔にわかりやすく説明することができるよう指導することが大切である。

<学習指導要領>

第2学年「数と式」領域(1)イ

具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則演算ができるようにする。

文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解する。

里奈さんの計算1

団体料金は、通常料金3200円の10%引きだから、
 $3200 - 3200 \times 0.1 = 3200 - 320 = 2880$
 団体料金2880円の10人分は、
 $2880 \times 10 = 28800$
 通常料金3200円の何人分にあたるかを求めるから、
 $28800 \div 3200 = 9$

里奈さんの計算1から、史跡巡りプランの団体料金の10人分は通常料金の9人分にあたるのがわかります。

里奈さんは、T社の他のプランも調べました。その結果、プランによって通常料金は異なりますが、10人以上で利用すると、どのプランでも団体料金は通常料金の10%引きになることがわかりました。そこで、通常料金が変わった場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかについて調べるために、T社の通常料金を a 円として、次のように計算しました。

里奈さんの計算2

団体料金は、通常料金 a 円の10%引きだから、
 $a - a \times 0.1 = a - 0.1a = 0.9a$
 団体料金 $0.9a$ 円の10人分は、
 $0.9a \times 10 = 9a$
 通常料金 a 円の何人分にあたるかを求めるから、
 $9a \div a = 9$

上の里奈さんの計算2からわかることがあります。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

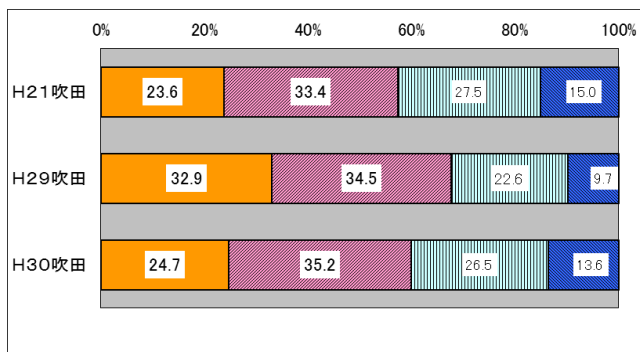
イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えていますか。

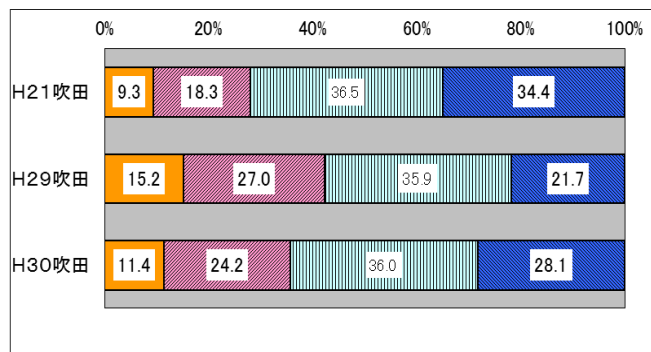
- ・肯定的回答率・・・小学生：59.9%（全国比－18.5%、前回比－7.5%、H21比＋2.9%）
 中学生：35.6%（全国比－3.1%、前回比－6.6%、H21比＋8.0%）

〔小学校〕

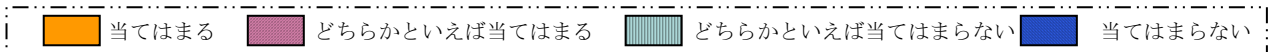


H21全国	41.2	35.6	17.7	5.2
H29全国	46.0	35.1	14.3	4.3
H30全国	39.7	38.7	16.4	5.0

〔中学校〕



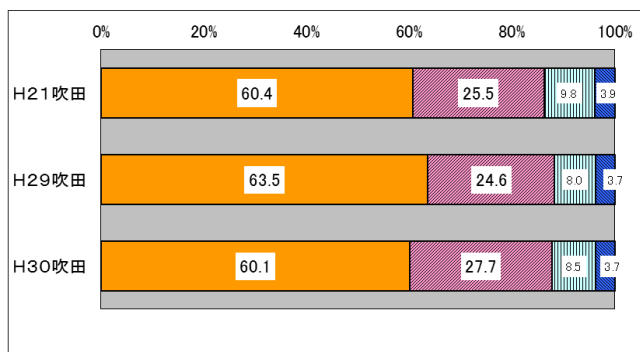
H21全国	11.3	23.0	39.1	26.0
H29全国	16.5	28.8	35.5	18.9
H30全国	12.0	26.7	37.5	23.6



Q：授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

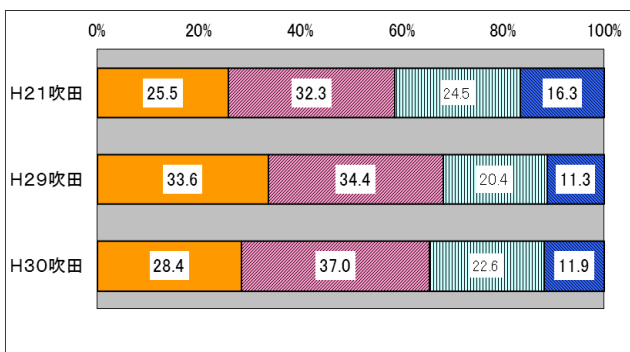
- ・肯定的回答率・・・小学生：87.8%（全国比－2.5%、前回比－0.3%、H21比＋1.9%）
 中学生：65.4%（全国比－7.5%、前回比－2.6%、H21比＋7.6%）

〔小学校〕

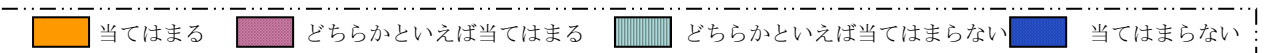


H21全国	63.8	24.4	8.4	3.1
H29全国	66.7	22.4	7.5	3.2
H30全国	65.5	24.8	7.0	2.6

〔中学校〕



H21全国	30.7	34.5	22.4	11.9
H29全国	37.7	34.7	18.6	8.7
H30全国	34.9	38.0	18.8	8.2

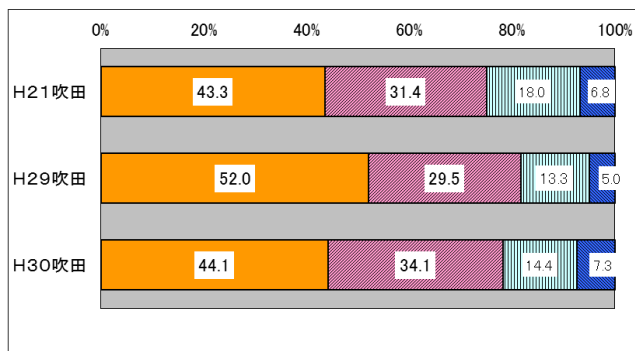


【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを考えていますか。

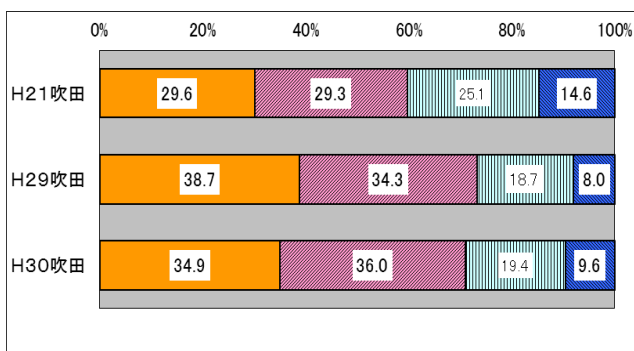
- ・肯定的回答率・・・小学生：78.2%（全国比－0.3%、前回比－3.3%、H21比＋3.5%）
 中学生：70.9%（全国比＋1.7%、前回比－2.1%、H21比＋12.0%）

〔小学校〕

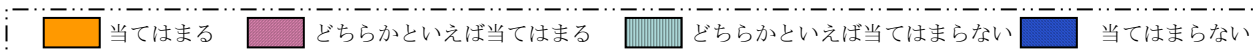


H21全国	44.9	33.2	16.1	5.5
H29全国	49.2	32.2	13.5	4.8
H30全国	44.2	34.3	15.7	5.7

〔中学校〕



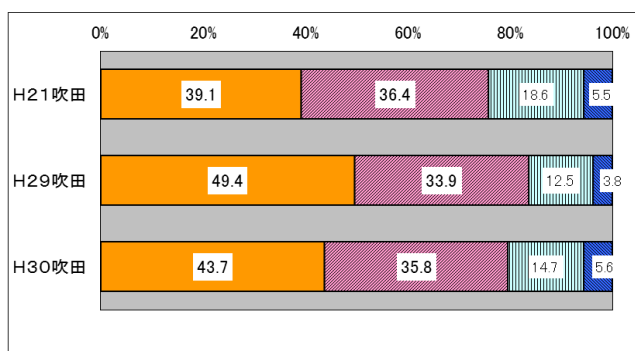
H21全国	30.6	33.0	25.3	10.5
H29全国	37.3	33.9	20.5	7.9
H30全国	33.4	35.8	22.1	8.5



Q：授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解しているようにしていますか。

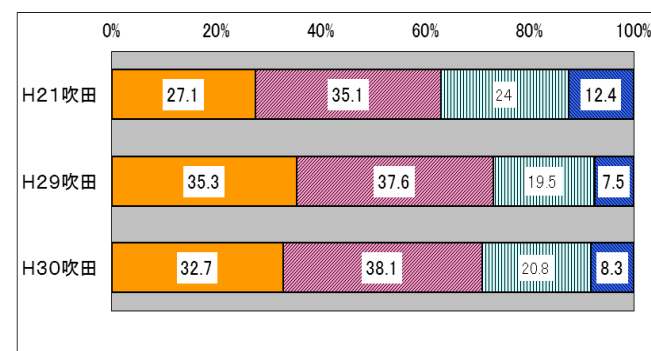
- ・肯定的回答率・・・小学生：79.5%（全国比－0.9%、前回比－3.8%、H21比＋4.0%）
 中学生：70.8%（全国比＋0.4%、前回比－2.1%、H21比＋8.6%）

〔小学校〕

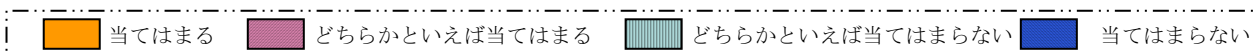


H21全国	42.8	35.9	16.1	4.8
H29全国	48.2	34.4	13.2	3.9
H30全国	43.7	36.7	14.9	4.5

〔中学校〕



H21全国	28.3	37.4	24.5	9.2
H29全国	34.0	38.1	20.5	7.0
H30全国	30.9	39.5	22.1	7.5

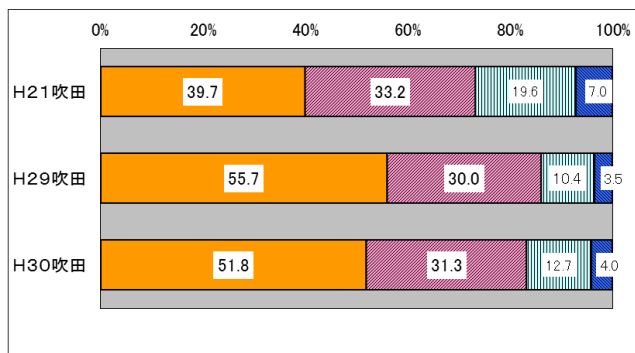


【算数・数学】児童・生徒質問紙より

Q：授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

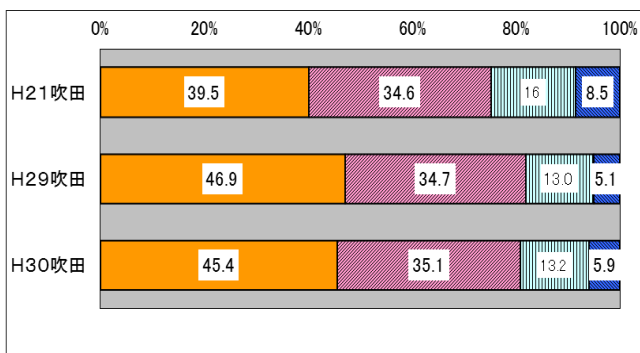
・肯定的回答率・・・小学生：82.9%（全国比－2.7%、前回比－2.8%、H21比＋10.0%）
 中学生：80.5%（全国比－0.1%、前回比－1.1%、H21比＋6.4%）

〔小学校〕

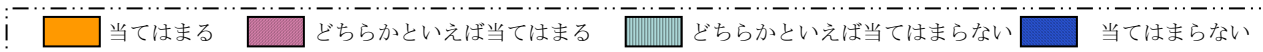


H21全国	46.8	32.7	15.2	4.9
H29全国	57.0	29.0	10.4	3.2
H30全国	56.8	29.0	10.5	3.5

〔中学校〕



H21全国	41.6	35.2	15.8	6.7
H29全国	47.0	34.3	13.0	5.3
H30全国	45.6	35.0	13.6	5.7



算数・数学について

現状及び経年変化

◇本市における正答率の全国比值（全国を100とした場合）は小・中学校ともに非常に高い。平成21年度と比較してもいずれも向上している。

小学校 算数A 110.2 小学校 算数B 112.6

中学校 数学A 112.0 中学校 数学B 117.3

しかし、児童・生徒質問紙では、小学校ではすべての項目において、肯定的回答が全国値及び前年度値を下回っており、中学校でも5項目中、全国値を下回った項目は3項目で、すべての項目において前年度値を下回った。

小・中学校ともに全国値を下回った質問は、以下の3項目であった。

Q：授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えていますか。

Q：授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

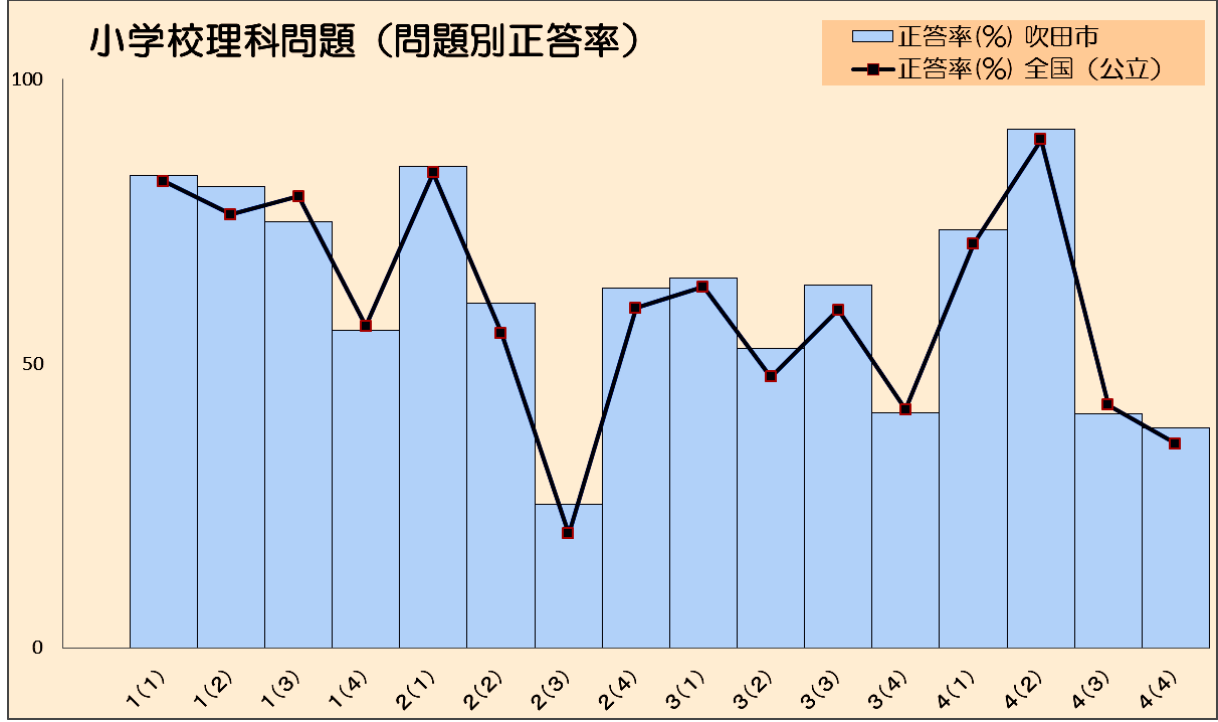
Q：授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか。

「当てはまる」と回答した児童・生徒の数は、小学校から中学校までの3年の間に減少する傾向があり、年齢が上がるにつれて生活や将来に役立つと思う意識は希薄になっている。

改善・向上のために

◆基礎学力、応用力はある程度身に付いているが、正答を得るための知識や技能にとどまっており、日常生活に活用し、将来、社会で役立つこととしては捉えられていない。その改善のためには、教科書で取り扱われる活用問題だけでなく、学習したことが身の回りの事象にも活用でき、実生活においても役立ったという経験が必要である。小学校では、単位量当たりの学習を生かして、買い物に行った際にグラム単価の安い食材を探してみたり、乗り物に乗った時に速度の学習から到着時刻を予想してみたりするなど、学習を活用する機会を増やす。同様に、中学校でも表やグラフの学習を生かして、効果的にプレゼンテーションを行うことや、正多角形の学習から幾何学模様を描く等、他の教科と関連付けて学習を役立てることは効果的である。

問題番号	問題の概要	学習 区分 指導 要領 の	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1(1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	生命	82.1	83.0	—
1(2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ		76.2	81.2	◎
1(3)	腕を曲げることでできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く		79.4	75.0	△
1(4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ		56.6	55.9	—
2(1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	地球	83.6	84.7	—
2(2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ		55.4	60.6	◎
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く		20.1	25.2	◎
2(4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ		59.8	63.3	○
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ		41.9	41.4	—
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く		35.9	38.7	○
3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	エネルギー	63.5	65.0	—
3(2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ		47.7	52.7	◎
3(3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ		59.4	63.9	○
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ		41.9	41.4	—
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	物質	71.1	73.5	○
4(2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ		89.4	91.2	—
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ		42.7	41.2	—
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く		35.9	38.7	○



【課題の見られる問題】

●問題番号

小学校 理科・2（3）

●問題の概要

より妥当な考えを作り出すために、実験結果を分析・考察し、その内容を記述する。

増水時の川の様子を想定し、水量と立てた棒の様子の関係から、地面の削られ方を判断する。また本問題では実験結果を分析し、理由や根拠を明確にしながら、自分の考えを示すことも求められている。

●課題とその改善を図るために本問題の正答率・無解答率は、（カッコ内は全国値）

正答率 25.2%（20.1%）

無解答率 0.9%（1.0%）

全問の中で正答率が最も低い。実験結果を分析・考察し、その判断理由を記述することについて課題がある。

本問題は、川を流れる水の量が増え、川の曲がっているところの外側も内側も削られることを示す「1」を選び、その理由を、「水の量」と「棒の様子」について言及しながら記述することが求められている。

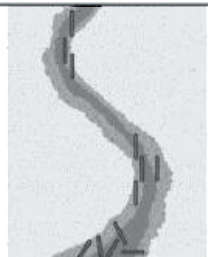
改善を図るための具体的な方策としては、実験を行う際に、「実験結果をもとに分析して考察する」ためには何に注目すればよいのか理解させることである。

本問題の実験で言うと、

- ① 実験を行うにあたっての条件を理解し、比較すること。
「1本の時」と「2本のペットボトルの水を同時に流して、水の量を増やした時」
- ② 2つの実験結果を理解し、比較すること。
「みぞの曲がっているところの外側だけたおれて内側はたおれなかった」
「みぞの曲がっているところの外側と内側の両方とも棒がたおれた」
- ③ 条件と実験結果を関係づけること。
「水の量を増やした時」→「外側も内側も地面が削られる」

授業で実験を扱う際には、着目する点をおさえ、思考活動を順序化し、結果から判断する根拠を見だし、正確に言語化する力をつける。

また、結果を覚える学習にとどまらず、身近に起こりうる自然災害に適切に対応することにつながる指導と、理科を学習することの有用性を児童に感じさせる指導を意識することが大切である。

実験結果	
1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす
	

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増え、川の曲がっているところの外側と内側の地面の削られ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側も削られる。
- 2 外側も内側も削られない。
- 3 外側だけが削られる。
- 4 内側だけが削られる。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の分野等	正答率(%)		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	物理	61.7	63.7	○
1 (2)			73.7	75.6	—
6 (1)	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる		70.5	72.6	○
6 (2) 電流			77.2	82.8	◎
6 (2) 抵抗			51.9	60.8	◎
6 (3)			91.4	91.6	—
7 (3)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる		94.4	95.2	—
2 (1)	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	生物	86.2	89.6	○
2 (3)			79.7	82.5	○
2 (4)			61.3	59.7	—
5 (1)	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる		57.2	59.1	—
5 (2)	62.8		68.7	◎	
9 (1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる		88.0	90.6	○

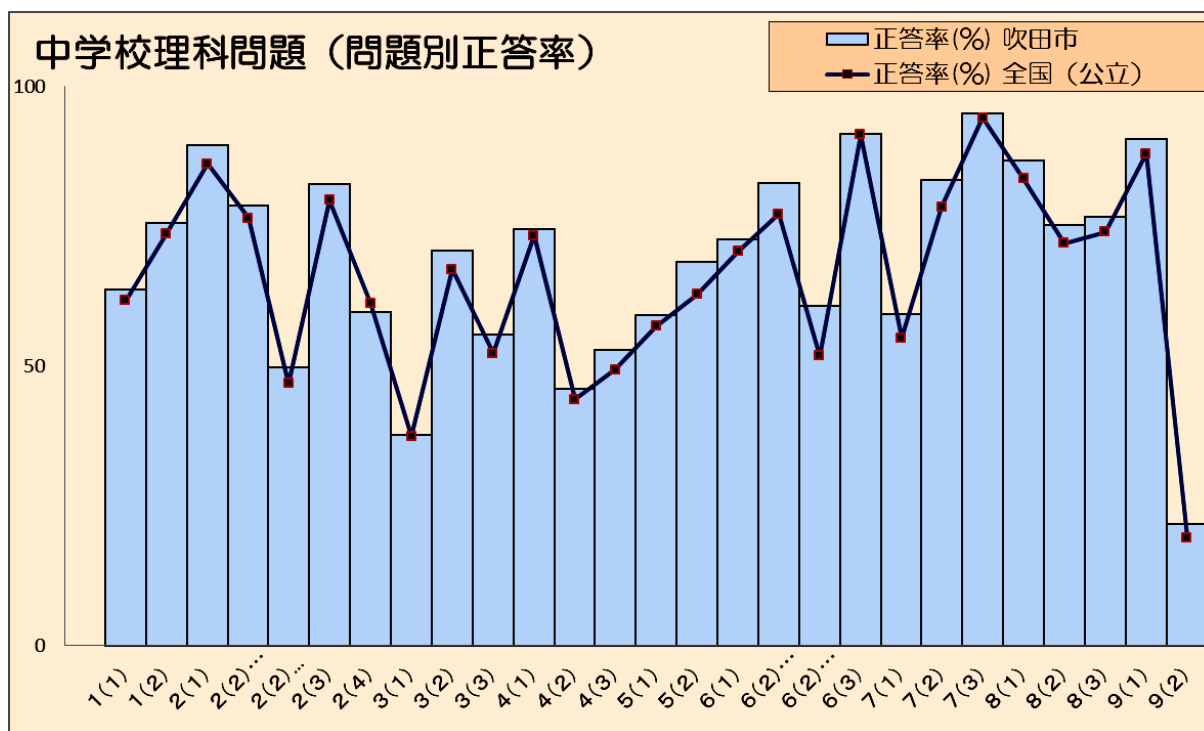
※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

問題番号	問題の概要	学習指導要領の分野等	正答率(%)		全国との関係 (正答率)	
			全国	吹田市		
3 (1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	37.5	37.7	—	
3 (2)			67.3	70.7	○	
3 (3)			52.3	55.6	○	
7 (1)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる		55.1	59.3	○	
7 (2)			78.5	83.3	○	
7 (3)			94.4	95.2	—	
9 (2)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる		19.4	21.8	○	
2 (2) 低い濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる		科学	76.5	78.7	○
2 (2) 3.0%の濃度				46.9	49.8	○
4 (1)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	73.4		74.6	—	
4 (2)		44.1		46.0	—	
4 (3)		49.4		52.9	○	
8 (1)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしているかどうかをみる	83.5		86.7	○	
8 (2)		72.0		75.2	○	
8 (3)		74.0		76.7	○	

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2～4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以下下回る	×



【課題の見られる問題】

●問題番号

中学校 理科・2（4）

●問題の概要

1つの要因を変えると、その他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。

条件制御の知識・技能を活用して要因が複数あると考えられる自然の事物・現象の実験を検討して改善し、1つの要因（変える条件）を変えると、その他にも変わる可能性のある要因（変わってしまう条件）を指摘することができるかどうかを見る。

●課題とその改善を図るために本問題の本市における正答率・無解答率は全国より下回っており、事象を分析し、その理由を記述することについて課題がある。

正答率

59.7%（全国61.3%）

無解答率

9.7%（全国9.5%）

正答は、水の温度、水温、水の体積、水の蒸発による食塩水の濃度、水温の上昇による水中の酸素濃度などであるが、誤答や無解答が多かった。

改善を図るための具体的な方策としては、

- 身近な自然の事物・現象について、自ら問題を見だし解決する観察・実験などを一層重視し、自然を探究する能力や態度を育成する。
- 生じた疑問に対して仮説を立て、検証方法を考え、実験を行い、考察する。仮説と異なる実験結果が出たとき、実験の方法も含めて結果を分析し、新たな課題を設定して探究を深める。実験を計画する際に大事なことは、自然の事物・現象に含まれる要因を洗い出し、それぞれの要因を変える条件と変えない条件に整理して、適切に条件を制御することである。
- 「条件制御」は、理科の見方・考え方の、「考え方」の1つで、「比較」「関係付け」「多面的に考える」という「考え方」と併せて、観察・実験において非常に重要な視点である。条件を1つ変えると、他に変わってしまう要素はないか考えることを習慣化させることで、より科学的な視点で身の周りの事象を捉えることができるようになる。科学的な知識や概念を活用したり、実社会や実生活と関連付けたりしながら定着を図ることで、科学的な見方や考え方、自然に対する総合的なものの見方を育てることにつながる。

レポートの続き

新たな課題

蛍光灯の下よりもっと明るい場所では、アサリが出す砂の質量は少なくなるのだろうか。

【新たな実験】

蛍光灯の下でアサリが出す砂の質量と、
明るい窓ぎわの光の下でアサリが出す砂の質量を比較する（図2）。

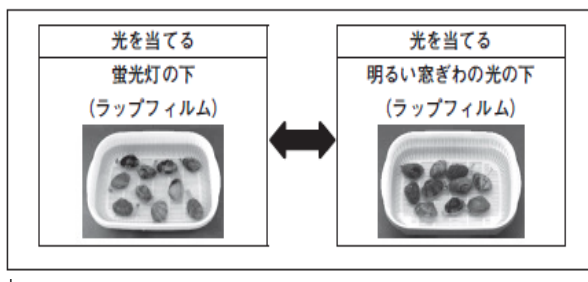


図2

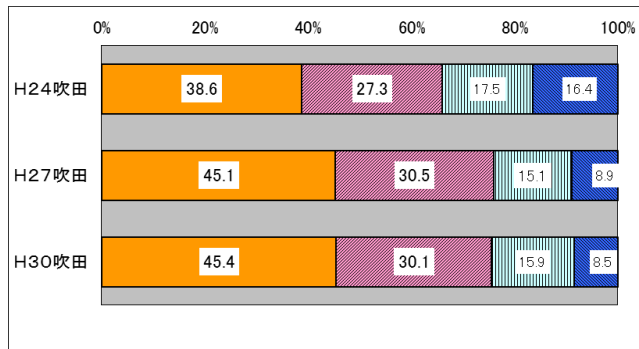
（4）春子さんと航太さんは、【新たな実験】で、もっと明るい場所に置くことによって明るさ以外にも変わってしまう条件があると考えました。変わってしまう条件として考えられるものを1つ書きなさい。

【理科】児童・生徒質問紙より

Q：理科の勉強は好きですか。

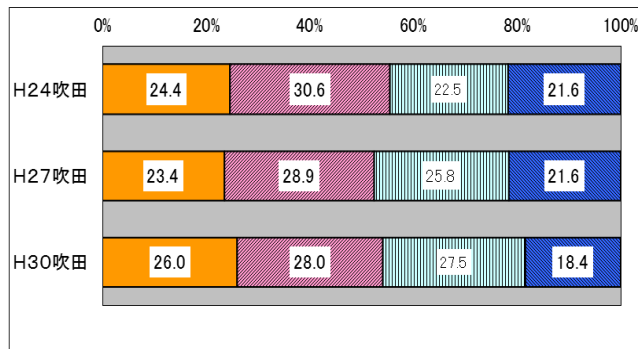
- ・肯定的回答率・・・小学生：75.5%（全国比－8.0%、前回比－0.1%、H24比＋9.6%）
 中学生：54.0%（全国比－8.9%、前回比＋1.7%、H24比－1.0%）

〔小学校〕

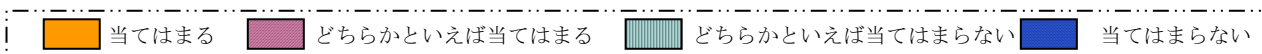


H24全国	51.5	30.0	12.6	5.6
H27全国	55.0	28.5	11.1	5.1
H30全国	52.6	30.9	11.7	4.7

〔中学校〕



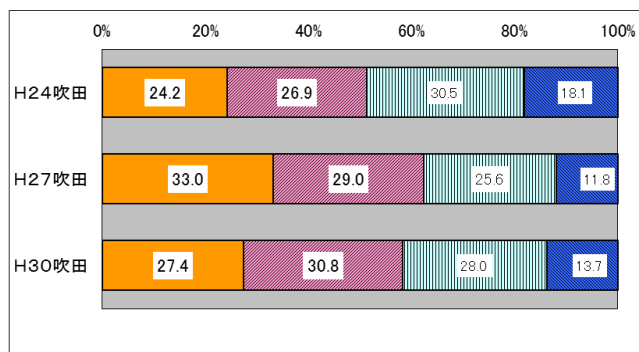
H24全国	29.4	32.2	23.9	14.0
H27全国	29.8	32.1	24.1	13.7
H30全国	30.0	32.9	24.1	12.9



Q：理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

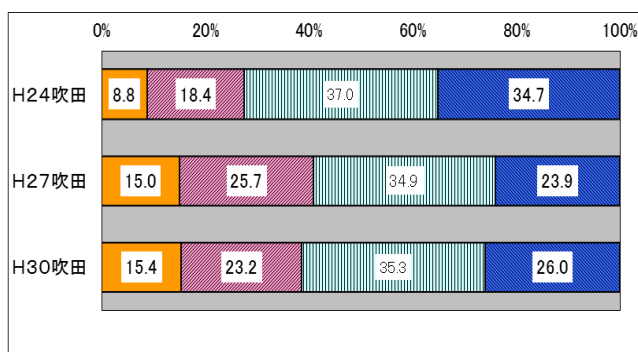
- ・肯定的回答率・・・小学生：58.2%（全国比－6.5%、前回比－3.8%、H24比＋7.1%）
 中学生：38.6%（全国比－6.8%、前回比－2.1%、H24比＋11.4%）

〔小学校〕

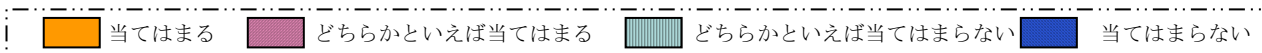


H24全国	29.5	32.4	26.3	11.4
H27全国	37.4	31.9	21.7	8.7
H30全国	31.1	33.6	24.7	10.5

〔中学校〕



H24全国	13.3	25.1	38.6	22.4
H27全国	18.1	28.8	34.7	18.1
H30全国	16.8	28.6	34.9	19.6

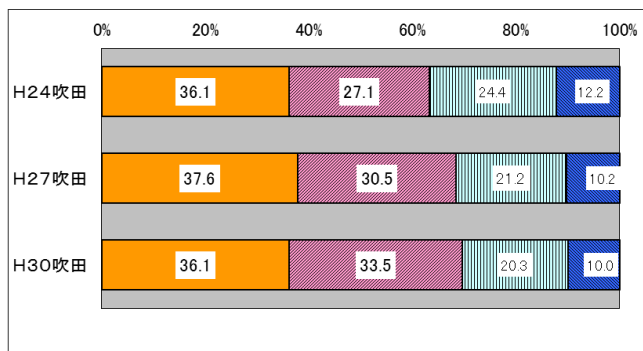


【理科】児童・生徒質問紙より

Q：理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

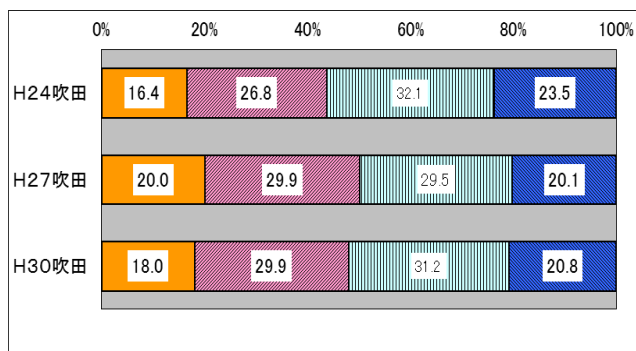
- ・肯定的回答率・・・小学生：69.6%（全国比－3.3%、前回比＋1.5%、H24比＋6.4%）
中学生：47.9%（全国比－7.8%、前回比－2.0%、H24比＋4.7%）

〔小学校〕

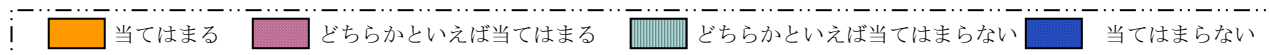


H24全国	42.8	30.4	18.5	7.9
H27全国	44.4	30.1	17.7	7.5
H30全国	39.9	33.0	19.6	7.4

〔中学校〕



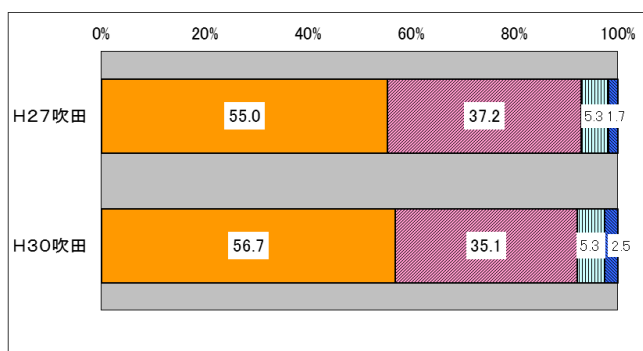
H24全国	20.4	31.5	30.8	16.6
H27全国	22.0	32.3	30.1	15.2
H30全国	21.9	33.8	29.8	14.4



Q：理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いますか。

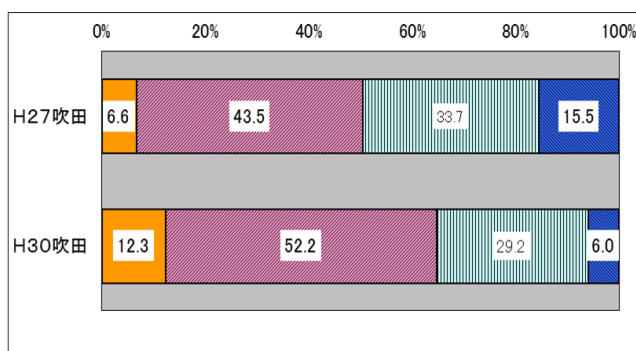
- ・肯定的回答率・・・小学生：91.8%（全国比＋2.7%、前回比－0.4%）
中学生：64.5%（全国比－22.6%、前回比＋14.4%）

〔小学校〕

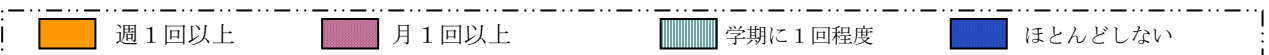


H27全国	45.8	44.2	7.2	2.3
H30全国	41.2	47.9	8.0	2.6

〔中学校〕



H27全国	39.2	44.7	11.5	4.0
H30全国	40.7	46.4	9.7	3.0

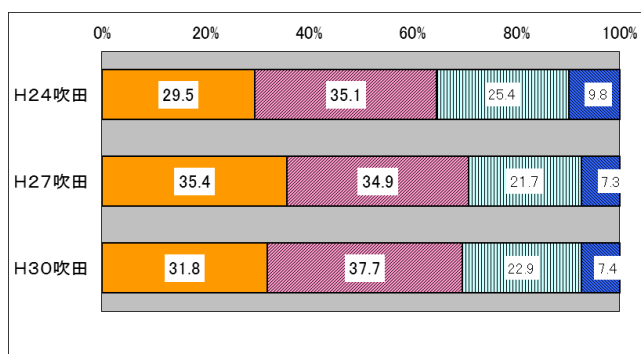


【理科】児童・生徒質問紙より

Q：理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。

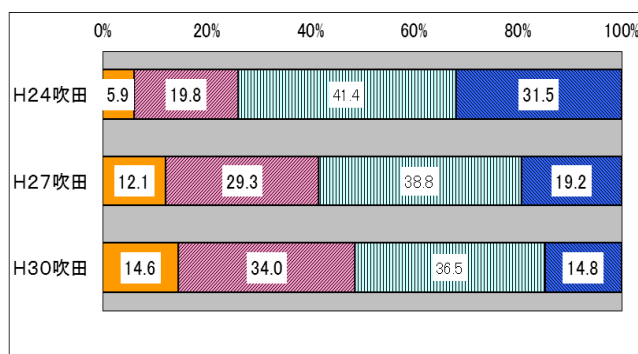
- ・肯定的回答率・・・小学生：69.5%（全国比－5.7%、前回比－0.8%、H24比＋4.9%）
 中学生：48.6%（全国比－9.9%、前回比＋7.2%、H24比＋22.9%）

〔小学校〕



H24全国	33.0	37.1	22.6	6.8
H27全国	39.4	35.9	18.9	5.5
H30全国	37.2	38.0	19.1	5.5

〔中学校〕



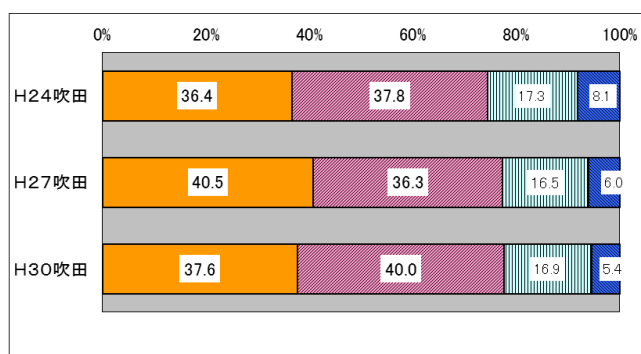
H24全国	13.7	32.7	37.6	15.3
H27全国	18.4	36.6	33.0	11.6
H30全国	19.4	39.1	30.9	10.5

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。

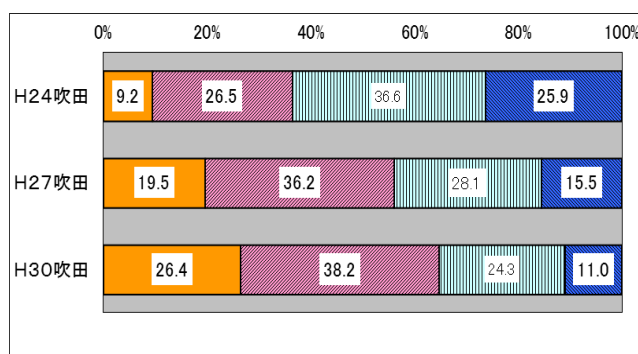
- ・肯定的回答率・・・小学生：77.6%（全国比－4.2%、前回比＋0.8%、H24比＋3.4%）
 中学生：64.6%（全国比－7.7%、前回比＋8.9%、H24比＋28.9%）

〔小学校〕



H24全国	39.2	37.9	17.6	4.8
H27全国	44.4	36.0	15.0	4.2
H30全国	43.6	38.2	14.3	3.8

〔中学校〕



H24全国	19.6	36.9	30.5	12.3
H27全国	28.0	39.2	23.7	8.6
H30全国	31.7	40.6	20.4	7.1

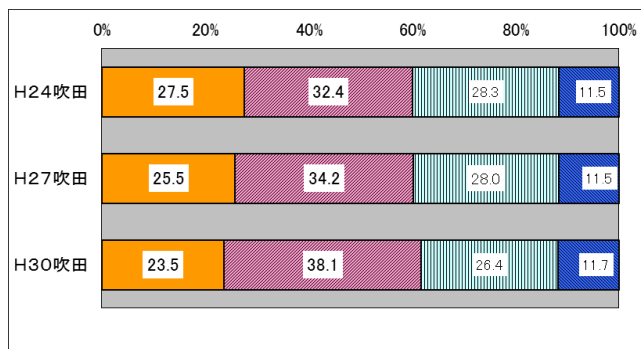
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

【理科】児童・生徒質問紙より

Q：理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。

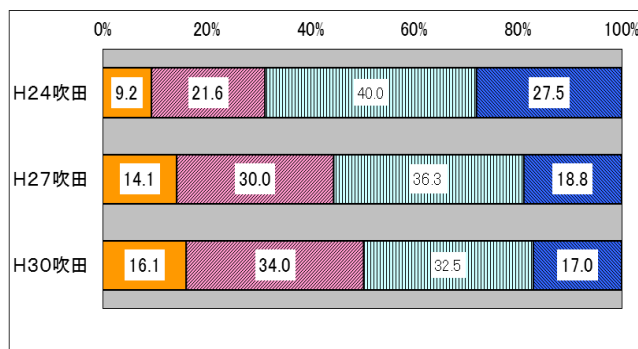
- ・肯定的回答率・・・小学生：61.6%（全国比－6.5%、前回比＋1.9%、H24比＋1.7%）
中学生：50.1%（全国比－8.9%、前回比＋6.0%、H24比＋19.3%）

〔小学校〕



H24全国	28.8	36.4	25.7	8.6
H27全国	30.3	36.8	24.1	8.4
H30全国	29.4	38.7	23.8	7.9

〔中学校〕



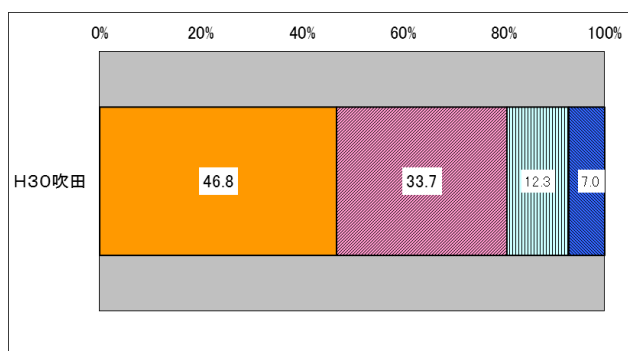
H24全国	16.8	33.0	34.2	15.1
H27全国	19.1	35.9	31.8	12.7
H30全国	20.7	38.3	29.6	11.2

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：五年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：80.5%（全国比－7.0%）

〔小学校のみ〕



H30全国	52.5	35.0	8.8	3.6
-------	------	------	-----	-----

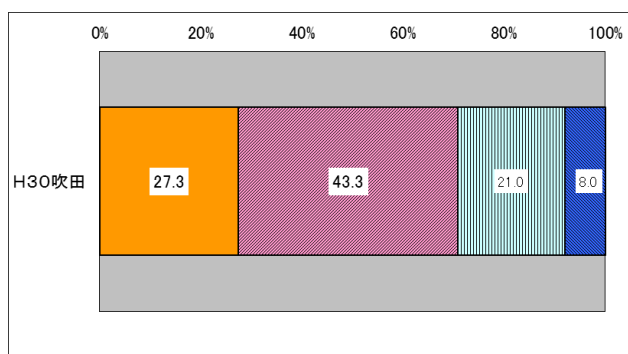
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

【理科】児童・生徒質問紙より

Q：5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことが出てきましたか。

・肯定的回答率・・・小学生：70.6%（全国比—4.5%）

〔小学校のみ〕



H30全国	30.0	45.1	19.3	5.3
-------	------	------	------	-----

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

理科について

現状及び経年変化

◇本市における正答率の全国比值（全国を100とした場合）は小・中学校とも、わずかに全国比值を上回っているが、平成27年前回調査と比較すると小・中学校とも、全国値との差が縮まる結果となった。

小学校 理科 102.8 （前回調査（H27）の全国比值 ▼2.5）

中学校 理科 104.4 （前回調査（H27）の全国比值 ▼1.4）

児童・生徒質問紙においては、小学校では9項目中8つの項目で肯定的回答が全国値を下回っており、中学校では7項目すべての項目が、全国値を下回った。中でも、以下の質問等で全国値を大きく下回った。

Q：理科は好きですか。 （小学校 全国比值▼8.0、中学校 全国比值▼8.9）

Q：学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

（小学校 全国比值▼6.5、中学校 全校比值▼6.8）

Q：理科室で観察や実験をどのくらい行いますか。 （中学校 全国比值▼22.6）

※実験の実施回数を「週1回以上」または「月に1回以上」と回答した数

改善・向上のために

◆今回調査で小学校では「理科の授業の面白さ」や「授業後に、もっと知りたい気持ちになったか」を問う項目が新たに加わった。理科離れさせない、「面白い」「もっと知りたい」授業が求められている。身の回りの事象に疑問を感じる気持ちを学びのスタートとし、仮説を立て、実験・検証する中で、自然事象や科学の面白さを感じさせられる探究活動を増やす必要がある。実験や検証からわかった事実を、他の場面ではどうなるのか、日常生活には使えないか考えさせる。小学校から培われてきた、体験から学ぶ学習スタイルを中学校でも継承し、演示実験だけでなく、生徒自らが実体験を通じて探究活動を行える機会を増やし、その中で知識の習得ができる授業を心がける。

【分析グラフの見方について】

①「している（当てはまる）」「どちらかといえばしている（当てはまる）」を合わせたものを「肯定的回答群」としている。

「あまりしていない（どちらかといえば）当てはまらない」「全くしていない（当てはまらない）」を合わせたものを「否定的回答群」としている。

②「H29（27、21）吹田」「H29全国」は、前回調査「平成29（27、21）年度全国学力・学習状況調査」における児童・生徒質問紙の調査結果を掲載したものである。（本調査と同一の質問項目がある場合のみ）

③平成21年度の調査結果を掲載しているのは、本市における小中一貫教育を基盤とする「総合的人間力」の育成に係る教育施策の取組効果を検証するためである。

（1）自分自身のことについて

現状及び経年変化

◇自尊感情は、平成21年度及び前回調査と比較すると小・中学生ともに向上しており、特に中学生は大幅に向上しているが、小・中学生とも全国値をわずかに下回っている。

◇将来の夢や目標を持っている割合は、平成21年度と比較して中学生は向上しているものの、小学生は低下しており、小・中学生ともに全国値よりも低くなっている。

◇「人の役に立つ人間になりたい」について肯定的な回答をしている割合は、平成21年度及び前回調査と比較して、小・中学生ともに向上しているが、中学生は全国値よりもやや下回っている。小学生は全国値を大きく上回っている。

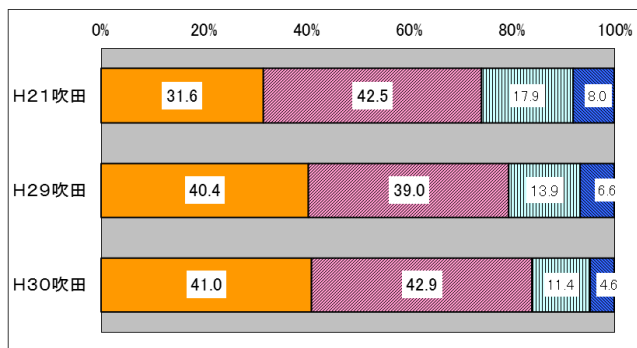
改善・向上のために

- ◆学校
 - ・教育活動全体において個々の子供理解に努め、子供同士が関わり、協力し合う取組を増やし、それぞれの良さが発揮できる場面を意識的に作り、自己有用感、自尊感情を育む。
 - ・キャリア教育の小中一貫カリキュラムを活用し、系統的、継続的な取組を推進することで、将来に対する目的意識や展望を育む。
- ◆家庭
 - ・子供自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子供の行動に目を向け、良さを認めることで自己有用感や自尊感情を高めていく。

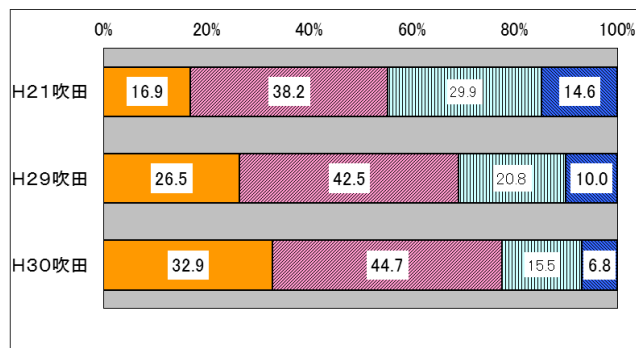
Q：自分には、よいところがあると思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：83.9%（全国比－0.1%、前回比＋4.5%、H21比＋9.8%）
 中学生：77.6%（全国比－1.2%、前回比＋8.6%、H21比＋22.5%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	32.3	42.3	18.2	7.1
H29全国	38.6	39.3	14.9	7.0
H30全国	41.2	42.8	11.6	4.3

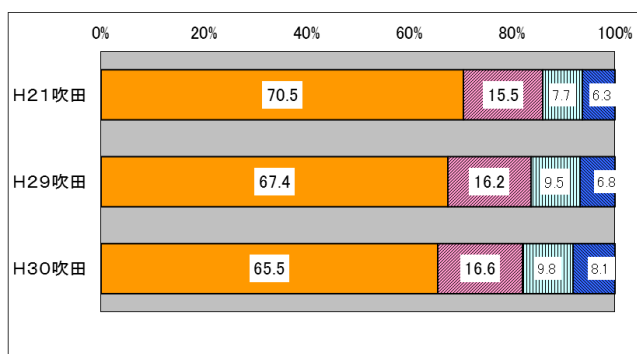
H21全国	8.8	42.4	27.7	10.9
H29全国	28.2	42.5	20.5	8.6
H30全国	33.7	45.1	15.2	6.0

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

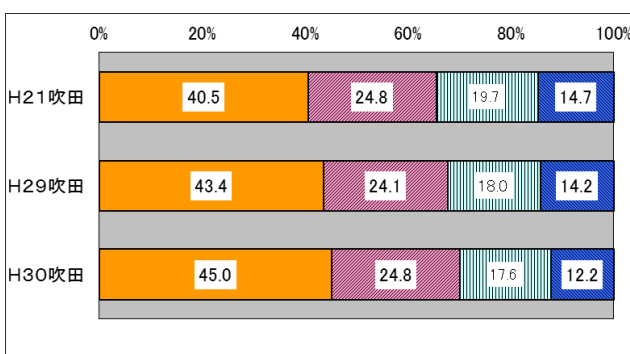
Q：将来の夢や目標を持っていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：82.1%（全国比－3.0%、前回比－1.5%、H21比－3.9%）
 中学生：69.8%（全国比－2.6%、前回比＋2.3%、H21比＋4.5%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	70.0	16.3	7.9	5.8
H29全国	70.0	15.9	8.1	5.9
H30全国	68.2	16.9	8.6	6.2

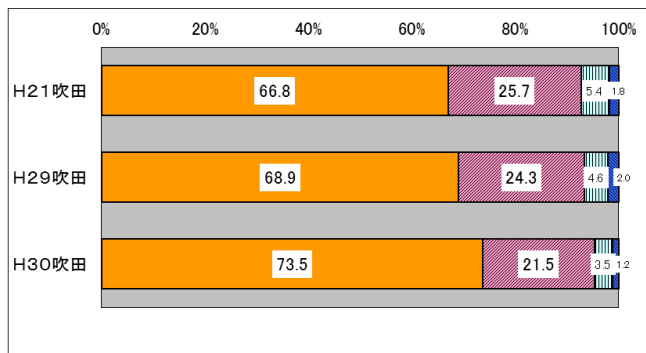
H21全国	43.7	27.3	18.3	10.5
H29全国	45.3	25.2	18.3	11.0
H30全国	45.3	27.1	17.4	10.0

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

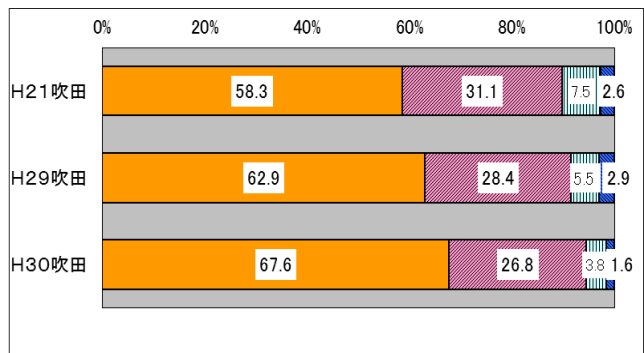
・肯定的回答率・・・小学生：95.0%（全国比+5.5%、前回比+1.8%、H21比+2.5%）
 中学生：94.4%（全国比-0.5%、前回比+3.1%、H21比+5.0%）

〔小学校〕



H21全国	67.6	24.9	5.4	1.9
H29全国	68.0	24.5	5.1	2.2
H30全国	74.2	21.0	3.3	1.3

〔中学校〕



H21全国	61.5	28.9	6.7	2.6
H29全国	66.1	25.8	5.3	2.5
H30全国	70.7	24.2	3.5	1.4

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

(2) 家庭生活・地域社会について

現状及び経年変化

- ◇「朝食を毎日食べていますか」に対する今年度の肯定的回答率は、小・中学生ともに前回調査及び全国値を下回っている。また、この質問に対し、肯定的な回答をしている児童・生徒の方が、教科における調査の正答率が高くなる傾向にある。
- ◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、勉強をしますか」について肯定的な回答をしている割合は、平成21年度及び前回調査と比較して、小・中学生ともに向上している。また、小・中学生ともに全国値を上回っている。
- ◇「自分で計画を立てて勉強していますか」に対して、小・中学生とも全国値よりは低い、前回調査よりやや上回っている。また、この質問に対して肯定的な回答をしている児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。
- ◇「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」について肯定的な回答をしている割合は、小・中学生とも全国値を大きく下回っている。
- ◇読書について、「全くしていない」と回答している割合は、平成21年度及び前回調査と比較すると減少しており、向上が見られる。
- ◇「新聞を読みますか」に対する肯定的回答率は、小学生は下回っているが、中学生は全国値をやや上回っている。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生とも平成27年度より向上しているが、全国値を下回っている。また、この質問に対して肯定的に回答している児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。
- ◇「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生とも平成27年度より向上しているが、全国値を下回っている。上記以外にも「地域社会などでボランティア活動に参加したことはありますか」という質問では全国値を大きく下回る結果であり、社会参画の意識の低さがうかがえる。

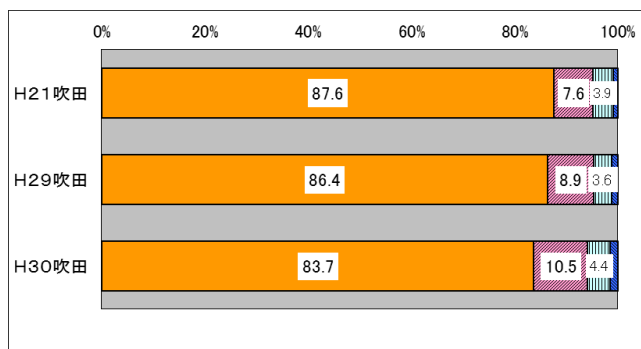
改善・向上のために

- ◆学校
 - ・日々の授業の中で児童・生徒の学習習慣の確立や主体的に取り組む態度を育成するとともに、保護者や地域との連携をさらに図る。
 - ・担任や教科担当教員が、それぞれの教科、領域に関わる社会の動きや時事問題を話題にし、児童・生徒に興味関心を持たせるとともに、教科との連携も図る。
 - ・読書習慣定着のために、学習内容に関連した本を紹介したり、すぐに手に取れるよう教室に置く等の読書環境の整備をする。また、読書活動支援者の活用を進め、学校図書館の充実を図る。
- ◆家庭
 - ・朝食の大切さの再確認を行う。
 - ・家庭学習についても、家庭での時間の使い方を話し合い、子供自身が主体的に取り組む姿勢を養う。
 - ・読書習慣の定着については、読んだ本の楽しさ・面白さについて話す機会を持ったり、家族で読書をしたりする等、本を身近に感じられる環境を整える。
 - ・社会の動きに関心を持てるよう、テレビやインターネットのニュースを一緒に見たり、時事問題を話題にしたり、ボランティアに参加する等、社会参画の意識を高める。

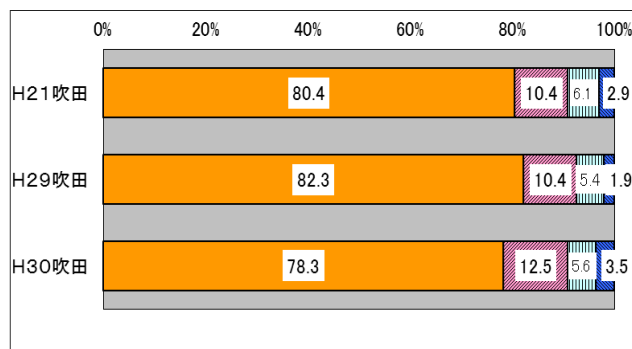
Q：朝食を毎日食べていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：94.2%（全国比－0.3%、前回比－1.1%、H21比－1.0%）
 中学生：90.8%（全国比－1.1%、前回比－1.9%、H21比±0%）

〔小学校〕

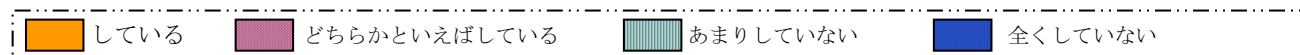


〔中学校〕



H21全国	88.5	7.5	3.2	0.7
H29全国	87.0	8.4	3.7	0.9
H30全国	84.8	9.7	4.1	1.4

H21全国	82.2	10.2	5.3	2.1
H29全国	82.7	10.5	4.9	1.9
H30全国	79.7	12.2	5.4	2.6



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
1	している	76.5	59.2	71.0	60.1	63.8
2	どちらかといえばしている	69.8	51.1	65.6	52.6	57.2
3	あまりしていない	65.2	43.0	59.8	45.4	51.6
4	全くしていない	61.6	44.3	53.9	39.8	46.9

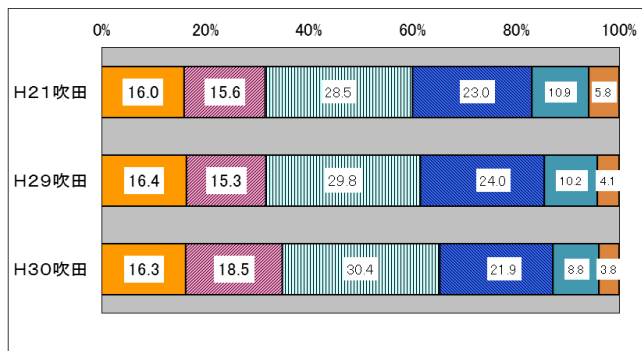
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
1	している	81.3	66.6	76.4	57.1	71.1
2	どちらかといえばしている	76.4	62.0	67.6	48.2	63.3
3	あまりしていない	75.7	60.7	65.3	46.6	62.0
4	全くしていない	69.3	52.2	60.3	39.4	57.6

Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、勉強をしますか。

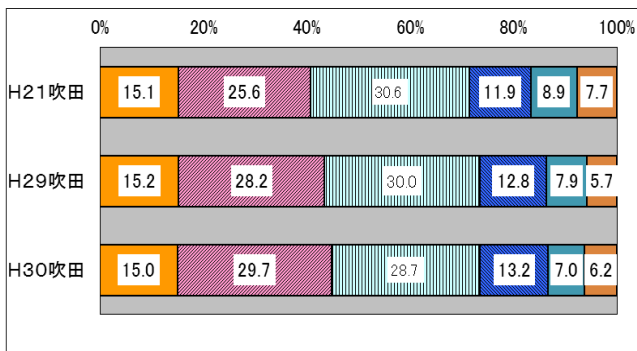
- ・1日2時間以上の割合…小学生：34.8%（全国比+5.5%、前回比+3.1%、H21比+3.2%）
 中学生：44.7%（全国比+8.3%、前回比+1.3%、H21比+4.0%）

〔小学校〕

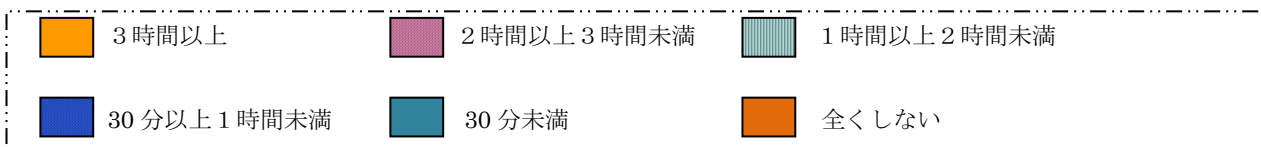


H21全国	11.6	14.1	31.5	26.4	12.3	4.0
H29全国	11.9	15.2	37.3	24.3	8.4	2.9
H30全国	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5

〔中学校〕



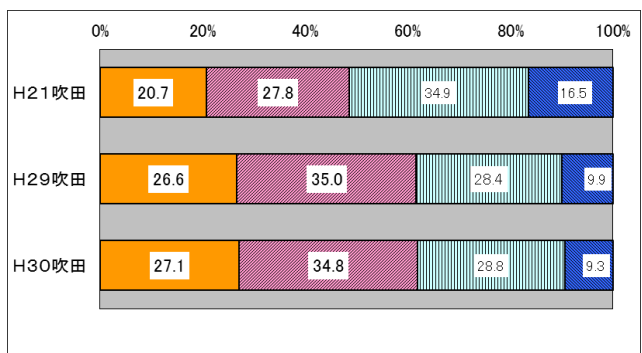
H21全国	10.2	25.5	29.6	16.6	10.3	7.7
H29全国	10.1	25.3	34.2	17.2	8.3	4.9
H30全国	10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9



Q：自分で計画を立てて勉強していますか。

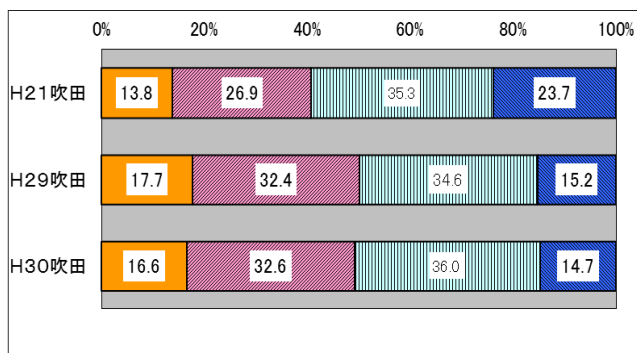
- ・肯定的回答率・・・小学生：61.9%（全国比-5.7%、前回比+0.3%、H21比+13.4%）
 中学生：49.2%（全国比-2.9%、前回比-0.9%、H21比+8.5%）

〔小学校〕

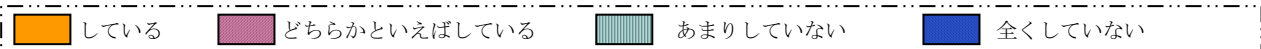


H21全国	23.3	31.4	31.9	13.3
H29全国	30.0	34.5	26.1	9.4
H30全国	30.7	36.9	24.7	7.6

〔中学校〕



H21全国	11.7	26.2	39.2	22.9
H29全国	18.6	32.9	33.9	14.5
H30全国	16.6	35.5	34.8	13.0



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
1	している	78.9	61.1	75.5	64.4	66.0
2	どちらかといえばしている	76.1	58.3	70.1	59.0	62.1
3	あまりしていない	73.8	56.6	67.2	56.4	62.3
4	全くしていない	63.3	45.5	58.7	43.7	52.1

〔中学校〕

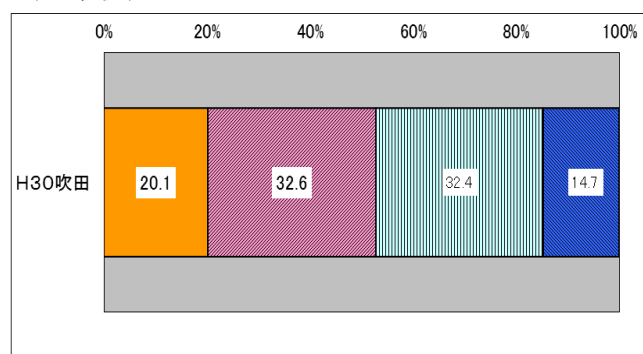
選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
1	している	82.8	67.7	79.1	60.7	73.6
2	どちらかといえばしている	80.8	66.4	76.1	56.6	70.9
3	あまりしていない	79.5	64.6	72.5	53.0	67.8
4	全くしていない	75.6	61.0	67.9	48.3	63.2

Q：家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

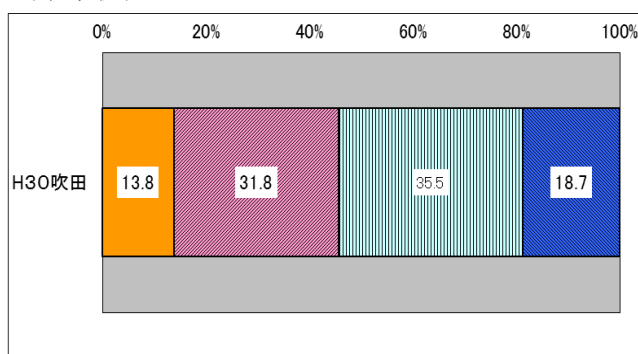
※この設問は今年度初めて設定されました。

- ・肯定的回答率・・・小学生：52.7％（全国比－9.9％）
中学生：45.6％（全国比－9.6％）

〔小学校〕



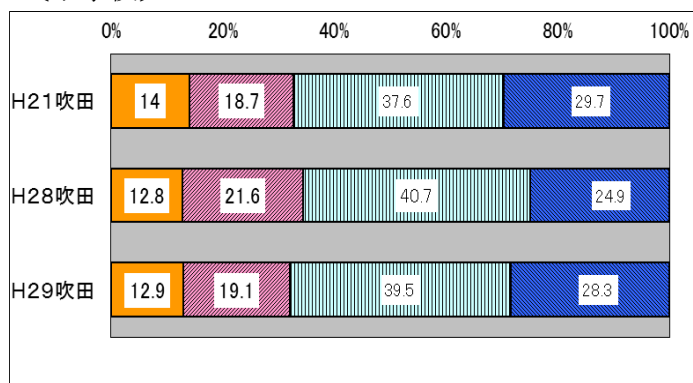
〔中学校〕



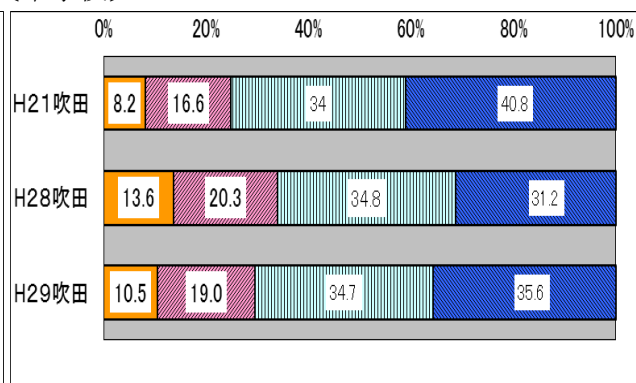
（参考）

Q：学校の授業の予習をしていますか。

〔小学校〕

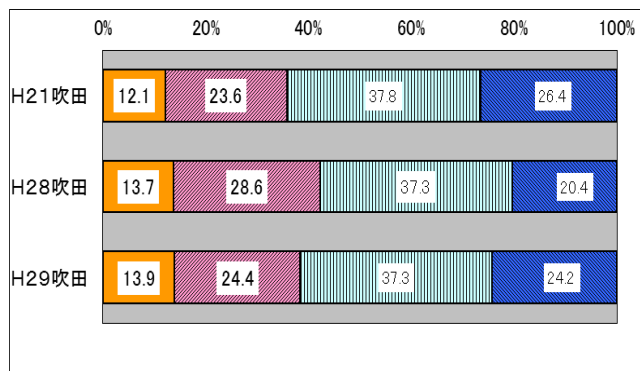


〔中学校〕

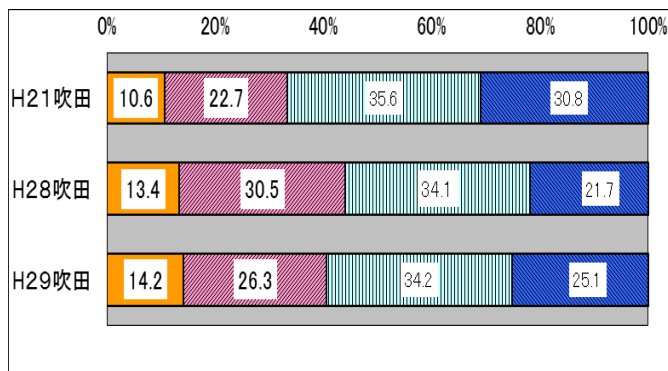


Q：学校の授業の復習をしていますか。

〔小学校〕



〔中学校〕

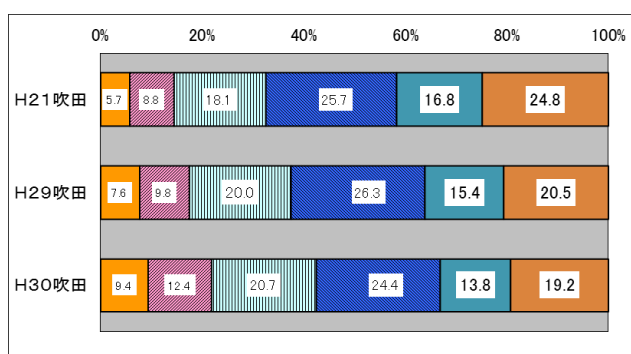


当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

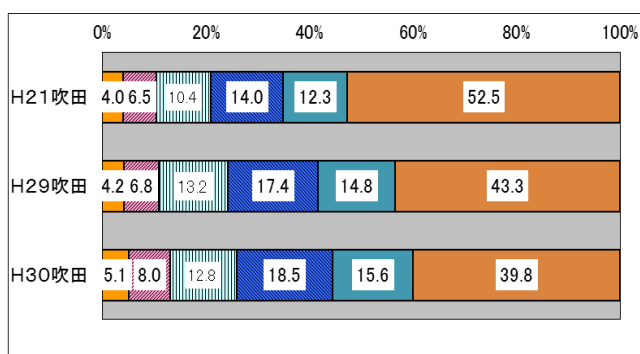
Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、読書をしめますか。

- ・全くしない割合…小学生：19.2%（全国比＋0.5%、前回比－1.3%、H21比－5.6%）
 中学生：39.8%（全国比＋6.9%、前回比－3.5%、H21比－12.7%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	6.1	10.0	19.1	26.0	16.9	21.7
H29全国	6.9	9.9	19.7	26.8	16.1	20.5
H30全国	7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7

H21全国	4.8	7.7	14.1	21.3	12.6	39.4
H29全国	5.7	8.3	15.2	22.2	12.8	35.6
H30全国	6.1	8.7	16.1	22.6	13.5	32.9

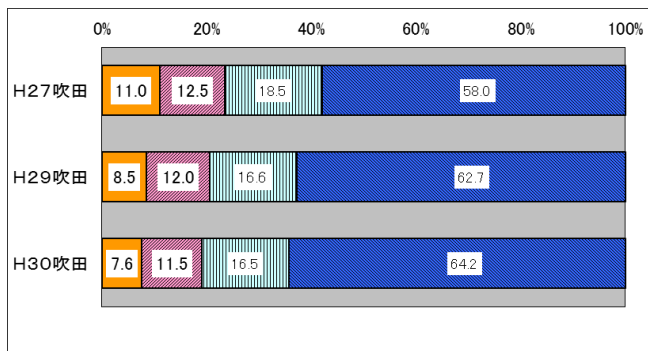
2時間以上
 1時間以上2時間未満
 30分以上1時間未満
 10分以上30分未満
 10分未満
 全くしない

Q：新聞を読んでいますか。

・肯定的回答率・・・小学生：19.1％（全国比－0.8％、前回比－1.4％、H27比－4.4％）
 中学生：14.8％（全国比＋0.9％、前回比－0.8％、H27比－5.2％）

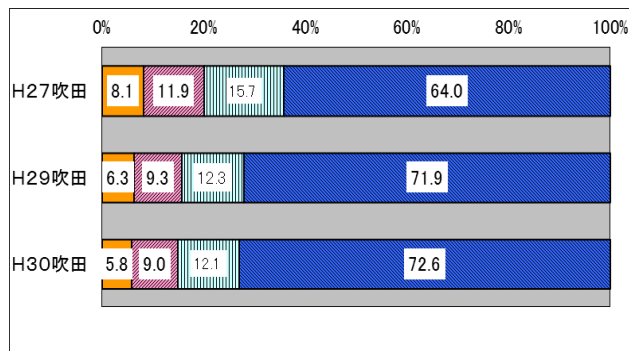
※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕

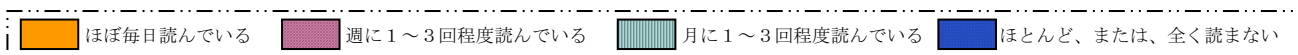


H27全国	10.0	17.1	22.3	50.4
H29全国	7.8	13.2	19.2	59.6
H30全国	7.4	12.5	19.0	60.9

〔中学校〕



H27全国	6.8	12.0	19.1	61.8
H29全国	5.3	9.6	15.5	69.5
H30全国	4.9	9.0	15.3	70.4



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
1	ほぼ毎日読んでいる	84.1	66.9	80.3	70.3	71.4
2	週に1～3回程度読んでいる	82.2	63.9	76.8	66.1	68.6
3	月に1～3回程度読んでいる	77.6	59.9	72.0	60.8	63.5
4	ほとんど、または、全く読まない	72.1	54.5	66.6	55.0	59.9

〔中学校〕

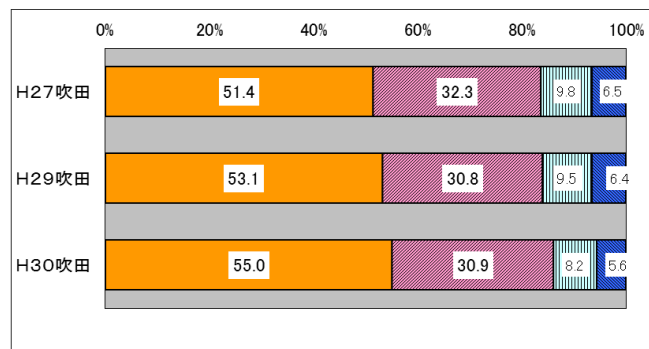
選択肢		平均正答率（％）				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
1	ほぼ毎日読んでいる	81.4	69.1	77.5	61.1	73.9
2	週に1～3回程度読んでいる	82.7	69.6	79.0	61.4	72.9
3	月に1～3回程度読んでいる	82.6	69.3	77.9	58.2	72.6
4	ほとんど、または、全く読まない	79.0	63.7	72.6	52.9	67.7

Q：テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

・肯定的回答率・・・小学生：８５．９％（全国比－０．３％、前回比＋２．０％、H27比＋２．８％）
 中学生：８５．３％（全国比－１．３％、前回比＋０．１％、H27比＋１．９％）

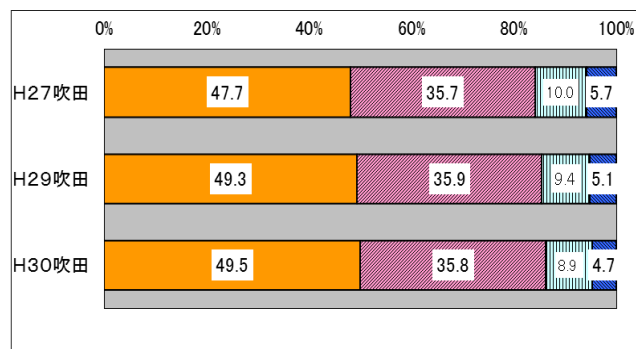
※平成２１年度にはこの設問がなかったため、平成２７年度比を掲載しています。

〔小学校〕

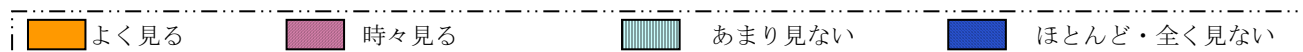


H27全国	53.8	30.9	9.3	5.7
H29全国	54.5	30.1	9.4	6.0
H30全国	57.3	28.9	8.4	5.1

〔中学校〕



H27全国	49.1	34.8	10.2	5.3
H29全国	51.8	34.9	8.6	4.4
H30全国	52.4	34.2	8.6	4.1



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
1	よく見る	76.3	58.8	70.7	59.5	63.2
2	時々見る	74.8	56.7	69.2	58.0	62.0
3	あまり見ない	71.7	54.1	68.8	56.2	61.0
4	ほとんど・全く見ない	69.8	52.8	63.9	52.7	58.3

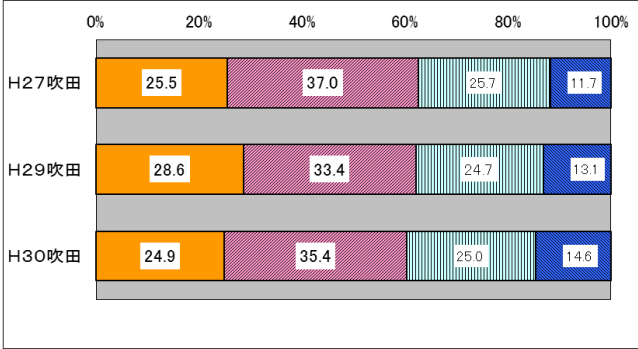
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
1	よく見る	81.1	66.0	75.2	56.1	70.4
2	時々見る	79.1	64.9	73.5	53.9	68.2
3	あまり見ない	77.8	63.3	72.2	51.6	67.6
4	ほとんど・全く見ない	77.2	62.7	71.7	54.0	66.2

Q：地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

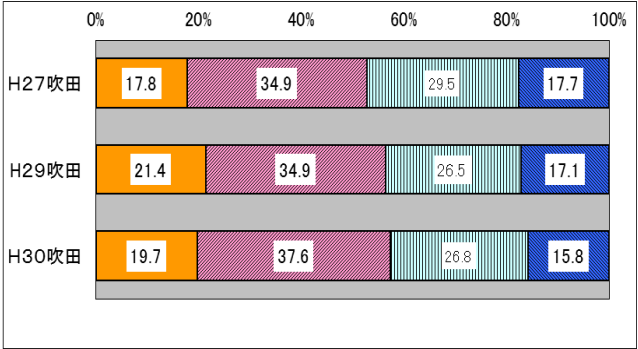
・肯定的回答率・・・小学生：60.3％（全国比－3.5％、前回比－1.7％、H27比－2.2％）
 中学生：57.3％（全国比－2.0％、前回比＋1.0％、H27比＋4.6％）
 ※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕

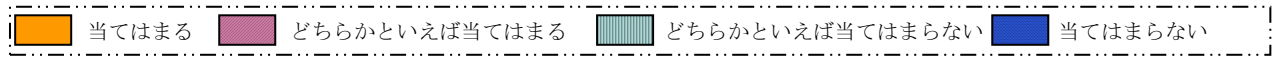


H27全国	25.7	38.2	25.5	10.6
H29全国	28.6	35.3	23.6	12.5
H30全国	26.8	37.0	24.5	11.6

〔中学校〕



H27全国	8.3	37.6	29.9	14.1
H29全国	22.5	36.7	25.9	14.8
H30全国	20.0	39.3	28.1	12.5



(3) 学校生活・学習について

現状及び経年比較

◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、平成21年度及び前回調査と比較し、小・中学生ともに向上しているが、全国値をやや下回っている。

◇「前年度の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。「前年度の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」において、小学生は全国値を下回っており、課題がみられる。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」については、小・中学生ともに平成27年度及び前回調査より向上しているが、全国値は下回っている。また、これらの質問に肯定的な回答をしている児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。

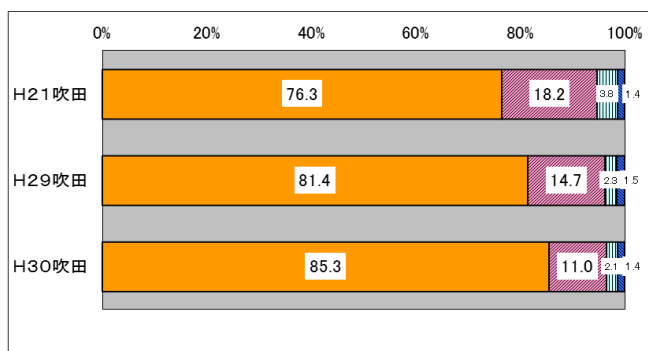
改善・向上のために

- ◆学校
 - ・次期学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ねらいや目標が明確化された授業を行うことで、子供たちが自分自身の学びや表現力等の向上、友達と学び合うことの良さを実感できるよう、授業づくり・授業改善に組織的・継続的に取り組む。
 - ・めあての提示、自分で考える時間や話し合う活動の確保、振り返りの実施等、授業の流れについて、学習のスタイルを確立するとともに、小中一貫教育の視点で、学びの連続性を意識した指導を行う。

Q：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

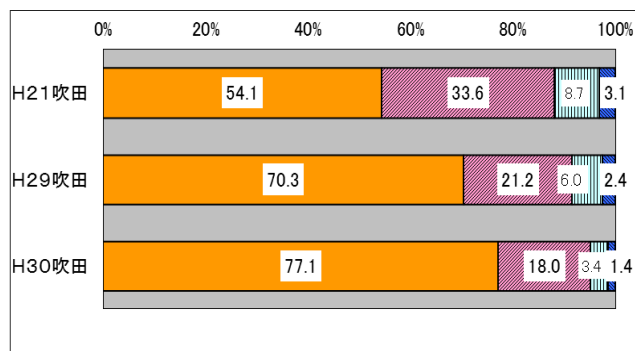
- ・肯定的回答率・・・小学生：96.3%（全国比－0.5%、前回比＋0.2%、H21比＋1.8%）
 中学生：95.1%（全国比－0.4%、前回比＋3.6%、H21比＋7.4%）

〔小学校〕



H21全国	76.6	18.3	3.7	1.3
H29全国	81.2	14.9	2.7	1.1
H30全国	85.9	10.9	1.9	1.1

〔中学校〕



H21全国	61.9	28.4	7.2	2.3
H29全国	73.3	19.5	4.9	2.2
H30全国	80.7	14.8	3.0	1.5

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：5年生（中学校は1，2年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

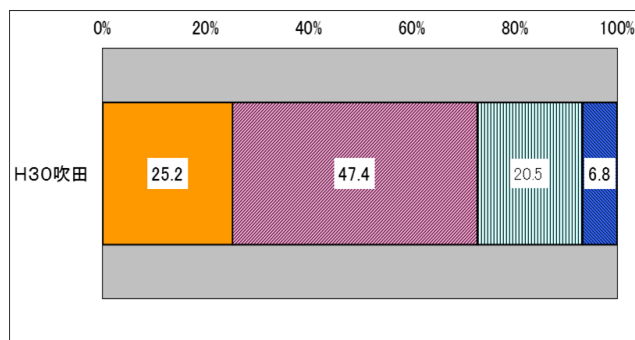
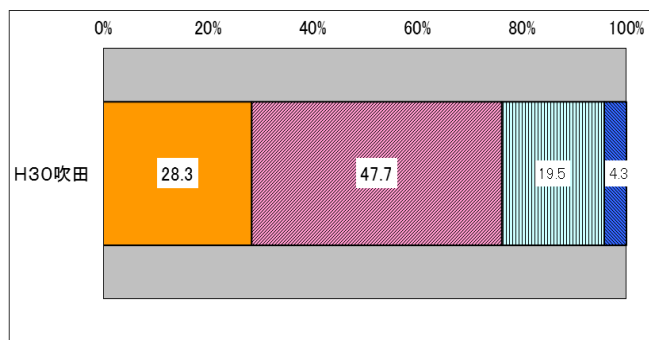
※この設問は今年度初めて設定されました。

・肯定的回答率・・・小学生：76.0%（全国比－0.7%）

中学生：72.6%（全国比－1.2%）

〔小学校〕

〔中学校〕



H30全国	29.1	47.6	19.0	4.2
-------	------	------	------	-----

H30全国	26.3	47.5	20.8	5.3
-------	------	------	------	-----

	当てはまる		どちらかといえば当てはまる		どちらかといえば当てはまらない		当てはまらない
--	-------	--	---------------	--	-----------------	--	---------

【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（%）				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
1	そう思う	78.7	61.3	76.3	65.3	66.0
2	どちらかといえば、そう思う	76.5	59.0	70.1	59.6	63.3
3	どちらかといえば、そう思わない	70.0	51.3	63.0	49.4	57.0
4	そう思わない	58.5	41.8	52.2	39.7	50.4

〔中学校〕

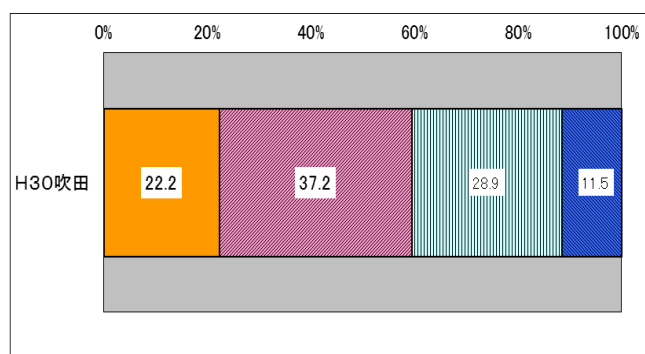
選択肢		平均正答率（%）				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
1	そう思う	83.3	69.2	80.2	63.2	74.4
2	どちらかといえば、そう思う	81.2	66.4	76.0	56.9	70.7
3	どちらかといえば、そう思わない	75.1	59.7	65.8	44.2	62.2
4	そう思わない	72.9	57.7	63.3	40.8	59.1

Q：5年生（中学校は1，2年生）のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

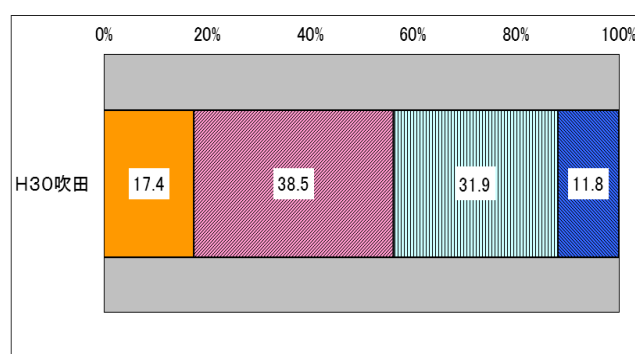
※この設問は今年度初めて設定されました。

・肯定的回答率・・・小学生：59.4%（全国比－1.6%）
中学生：55.9%（全国比＋2.1%）

〔小学校〕

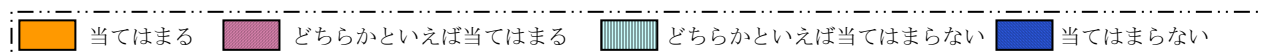


〔中学校〕



H30全国	23.5	37.5	28.7	10.0
-------	------	------	------	------

H30全国	6.6	37.2	33.4	12.5
-------	-----	------	------	------



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（%）				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
1	そう思う	79.9	62.5	76.0	64.8	67.0
2	どちらかといえば、そう思う	77.4	60.1	72.6	62.5	64.7
3	どちらかといえば、そう思わない	72.2	54.0	65.4	53.1	59.2
4	そう思わない	65.5	47.5	58.8	45.9	53.4

〔中学校〕

選択肢		平均正答率（%）				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
1	そう思う	83.1	69.0	80.1	62.6	74.1
2	どちらかといえば、そう思う	81.9	67.9	77.3	58.4	71.7
3	どちらかといえば、そう思わない	77.9	62.6	70.5	50.4	66.5
4	そう思わない	74.3	57.4	65.0	43.9	60.7

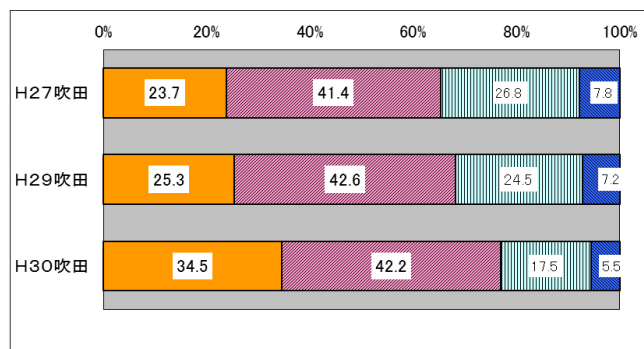
Q：話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：76.7%（全国比－1.0%、前回比＋8.8%、H27比＋11.6%）

中学生：73.9%（全国比－2.4%、前回比＋12.6%、H27比＋14.8%）

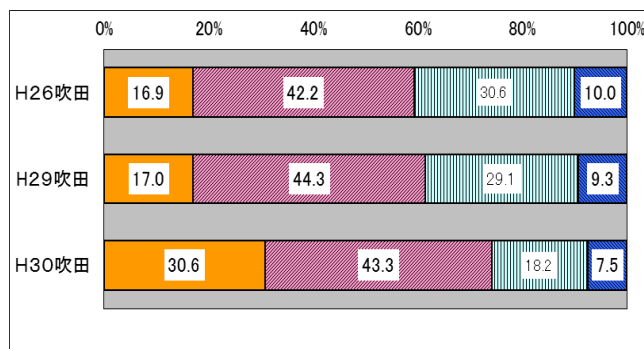
※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕



H27全国	25.2	41.7	25.5	7.5
H29全国	26.9	41.3	24.2	7.3
H30全国	34.7	43.0	17.3	4.8

〔中学校〕



H26全国	18.4	44.5	28.5	8.3
H29全国	19.7	45.1	26.7	8.1
H30全国	32.4	43.9	17.3	6.3

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
1	そう思う	77.1	60.2	72.9	62.2	64.3
2	どちらかといえば、そう思う	76.2	58.6	70.3	58.9	63.1
3	どちらかといえば、そう思わない	71.1	52.8	64.7	52.8	59.0
4	そう思わない	66.3	46.1	60.9	47.9	54.9

〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
1	そう思う	81.5	67.7	77.2	58.6	71.4
2	どちらかといえば、そう思う	80.6	66.1	74.5	55.1	69.7
3	どちらかといえば、そう思わない	77.1	60.9	70.4	50.9	66.1
4	そう思わない	76.3	59.6	68.2	47.4	64.2

おわりに ～「総合的人間力」の育成を目指して～

次期学習指導要領の内容が平成29年3月に公示されました。これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を、学校・家庭・地域が幅広く共有し、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざしていくことが重要です。

吹田市では、子供たちの「生きる力」の基盤となる「確かな学力」の育成を最重点課題に位置付け、義務教育9年間を見通す小中一貫教育を推進する中、各中学校ブロックでは「目指す子ども像」を共有し、学びや育ちの連続性を重視した様々な教育実践を展開しています。全国学力・学習状況調査の結果を分析することにより、本市における課題を明らかにした上で、教育施策の効果の検証を行い、教育内容の改善を図ってまいります。

各校においても、全国学力・学習状況調査結果を分析し、日々の授業の工夫改善を行い、課題の克服に向けて研鑽に努めてまいります。

【学力向上のための主要な視点】

- 9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
 - ・各校及び各中学校ブロックにおける小中一貫教育カリキュラム作成・活用による系統的で継続性のある教科指導の定着
 - ・授業における目標（めあて・ねらい）の明確な提示、学習内容や達成状況の振り返りによる理解の定着
 - ・子供たちが主体的に学習する活動や、対話的活動等を伴った学習の充実
 - ・次期学習指導要領の実施に向けた教員の指導力と授業の質的向上
 - ・ICT機器を活用した授業の研究と実践
 - ・指導と評価の一体化（目標に準拠した評価）
 - ・社会に関心を持ち、自発的に調べる意欲につながる授業実践や環境設定
- 授業規律、生活規律の確立
 - ・各中学校ブロックにおける小中共通の指導項目による系統的で継続性のある授業規律、生活規律の確立
 - ・校内指導体制の充実と生徒指導組織の機能化
 - ・インターネットや携帯電話・スマートフォン使用の在り方等、情報モラルに関する指導
- 習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導
 - ・児童・生徒の実態に応じた習熟度別指導の充実
 - ・少人数指導における指導方法、指導形態等の検証と改善
- 自学自習力の育成
 - ・思考力・判断力・表現力の基盤を支える読書活動・学校図書館教育の充実
 - ・放課後学習や補習等の学習支援の充実

教育委員会としましては、本調査の全市的な傾向・課題を踏まえ、「学力向上のための主要な視点」を施策として組み入れ、教員の指導力向上に向けた研修を行うとともに、各校における研究、実践等を支援いたします。また、学校・家庭・地域が手を携えて「総合的人間力の育成」に向けた取組を進めていけるよう、教育活動の充実・発展を図ってまいります。

平成30年(2018年)9月